



はばたけ未来へ！京プランの総括と
時代の変化を見据えた
次なる一手に向けて
～世界を視野に，軸足を京都に～



令和元年8月9日
京都市総合企画局

本日報告する内容

第1部

- 1 京プランの総括
- 2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

- 3 審議の進め方
- 4 時代の潮流

- (1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化
- (2)市政に特に関わりの深い変化
- (3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

第1部

1 京プランの総括

2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

3 審議の進め方

4 時代の潮流

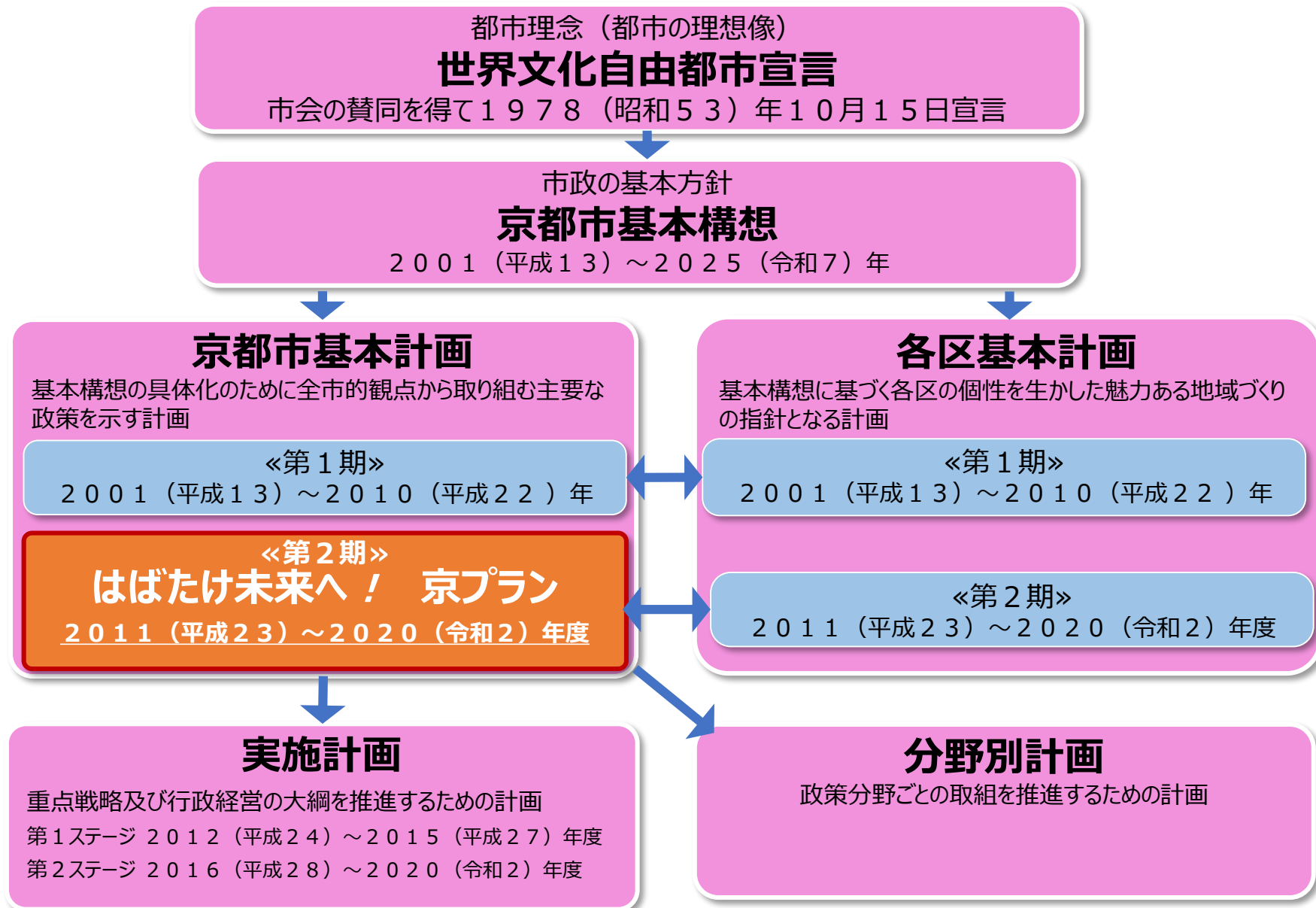
(1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化

(2)市政に特に関わりの深い変化

(3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

① 京都市の総合計画の体系



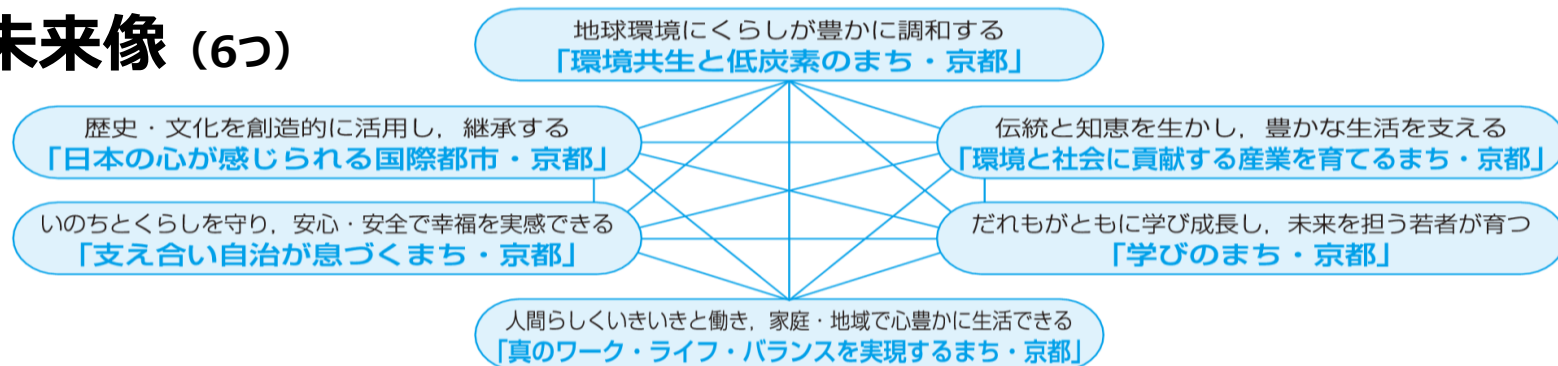
② 京プランの構成

計画の背景 基本計画を策定するに当たり、特に注目すべき社会経済情勢

①人口減少と少子高齢化 ②地球温暖化の加速 ③グローバル化の進展 ④低経済成長と厳しい京都市財政

都市経営の理念 都市政策を進めていくうえでの基本となる考え方
—生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く—

京都の未来像（6つ）



重点戦略（11戦略）

未来像の実現方策。複数の行政分野を融合し、特に優先的に取り組むべき事項

低炭素・循環型 まちづくり戦略	歩いて楽しい まち・京都戦略	歴史・文化都市 創生戦略	個性と活力あふれる まちづくり戦略
旅の本質を 追求する観光戦略	新産業 創造戦略	未来の担い手 育成戦略	子どもを共に 育む戦略
真のワーク・ライフ・ バランス戦略	地域コミュニティ 活性化戦略	いのちとくらしを 守る戦略	

政策の体系（27分野）

市全体の総合的な政策体系を簡潔に示すとともに、各部局が策定する分野別計画や毎年度の運営方針の基本となるもの

行政経営の大綱

基本計画を進めていくための基盤となる行政経営の方針

③ 京プラン推進に当たっての関連ビジョン・計画



30年後の京都のありたい姿「世界交流首都・京都」の実現に向け、3つの柱（以下）を提案

①世界の文化首都・京都

日本の文化の裾野を京都から拡大し、
多様な人材が活躍する文化のまち

②大学のまち・京都

あらゆる人々が活発に交流し、社会課題の
解決と新たな知見を生み出す大学のまち

③価値創造都市・京都

知恵と技術で幅広い分野で価値を創造し続け、
世界の産業と生活革新をリードするイノベーションの都

人口減少の歯止めと、東京一極集中の是正を
目指して策定。

<同戦略で目指すまちの姿（イメージ）>

一人一人がそれぞれの希望を実現しながら、日本伝統の
美意識や価値観、家族や地域の絆など「日本のこころ」を
大切に、安心して生き、働き、学び、暮らす。
同時に、国内外から人々が集い、活発に交流する。
そのことを通じて、単に「人の数（人口）」だけではなく、
「人々の笑顔の数」が、より多く、将来にわたって持続する
社会

「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略

人口減少社会の克服と、東京一極集中是正の、全国モデルをつくる！

未来への京都市の挑戦、京都市の使命

平成 27 年 9 月



③ 京プラン推進に当たっての関連ビジョン・計画

京プランに基づく約150の分野別計画



これらの計画を踏まえ、京プランに掲げる京都の未来像の実現を目指した取組を推進

④ 京プランに基づく主な取組成果

重点戦略 1

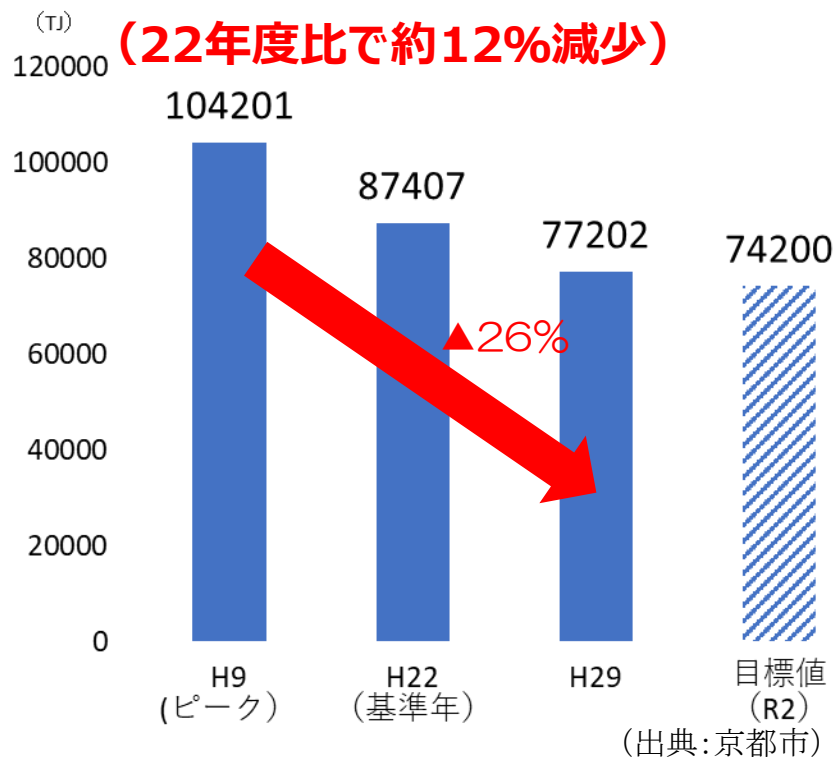
市民ぐるみで、くらしやまちの変化を実現する
「低炭素・循環型まちづくり戦略」

－資源・エネルギー多消費型から、低炭素・循環型の都市のあり方とくらし方へ転換－

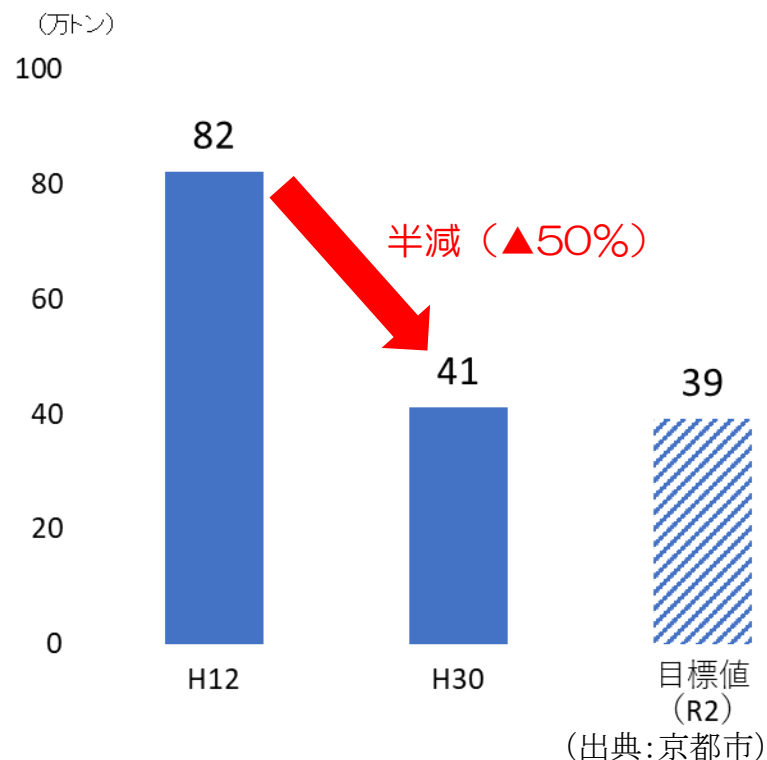
◆京都市内のエネルギー消費量は

ピークから約26%減少

(22年度比で約12%減少)



◆ごみの市受け入れ量は半減



④ 京プランに基づく主な取組成果

重点戦略2

ひとと公共交通を優先する 「歩いて楽しいまち・京都戦略」

－過度なクルマ中心社会からの脱却 低炭素型でひとと公共交通を優先－

◆ 四条通の歩道を拡幅

歩道の拡幅

⇒ 最大2倍に拡幅，車道を4→2車線に減少

停車スペースの設置

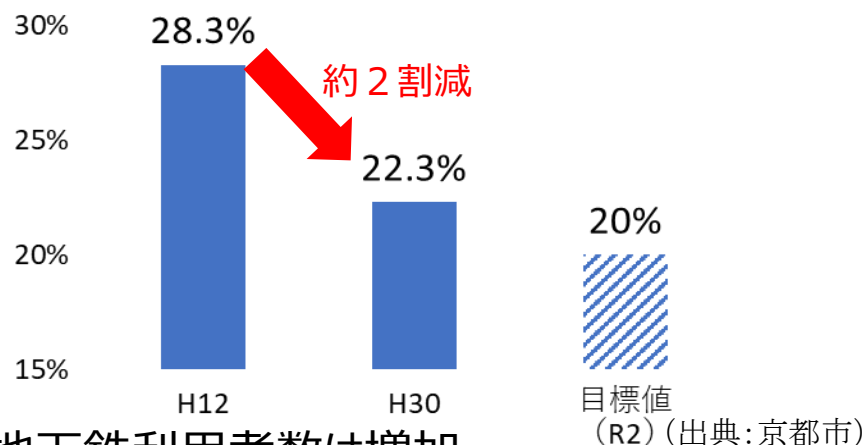
⇒ 沿道に停車スペースを15箇所設置

バス停の集約とテラス型バス停の設置

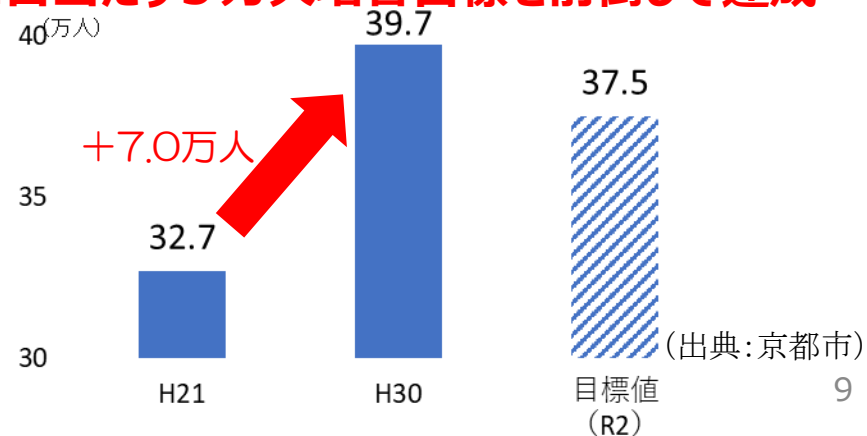
⇒ 16→4箇所を集約



◆ 自動車分担率は大幅に減少 (28.3%→22.3%)



◆ 地下鉄利用者数は増加 1日当たり5万人増客目標を前倒して達成



④ 京プランに基づく主な取組成果

重点戦略3

歴史都市の品格と魅力が国内外のひとびとを魅了する

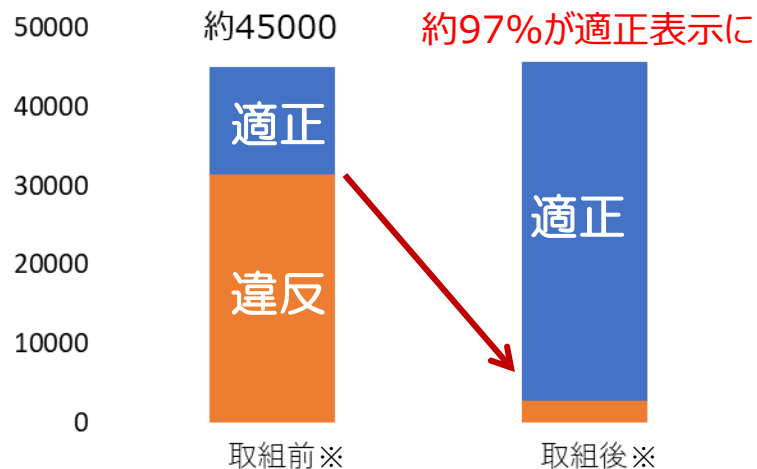
「歴史・文化都市創生戦略」

－ 景観，文化など有形無形の京都の特性を守り育てるとともに創造的に活用・発信－

◆ 文化庁の京都移転が決定



◆ 市民・事業者等の御協力により 屋外広告物が概ね適正に



(※) 平成24年度に開始した是正指導等の集中取組

④ 京プランに基づく主な取組成果

魅力ある地域資源と既存の都市インフラを生かす

重点戦略 4

「個性と活力あふれるまちづくり戦略」

ー地域の資源を創造的に活用し、既存の都市インフラを生かした個性と活力あふれるまちづくりー

◆様々な地域拠点でまちづくりが進捗

山ノ内浄水場跡地

京都学園大学（現京都先端科学大学）
京都太秦キャンパス開設（H27）
太秦病院移転開業（H29）
大和学園のキャンパス設置（H30）

西陣を中心とした地域

活性化ビジョンの策定（H31）

北部山間地域

実際に居住し、
魅力発信に取り組む
「かがやき隊員」配置（H28）

岡崎地域

神宮道・岡崎公園再整備、動物園再整備、
ロームシアター京都リニューアルオープン（H27）
京都市京セラ美術館リニューアルオープン（R1予定）

京都駅西部エリア

京都鉄道博物館の開業（H28）
JR梅小路京都西駅の開業（H31）
など

琵琶湖疏水

通船（H30）

桂～洛西口・洛西エリア

「地域交流」や「子育て応援」の
機能を備えたまちづくりに資する
公共施設を整備する
駅間プロジェクト（H27～）
洛西NTの活性化プログラムの
策定（H28）

京都駅東南部エリア

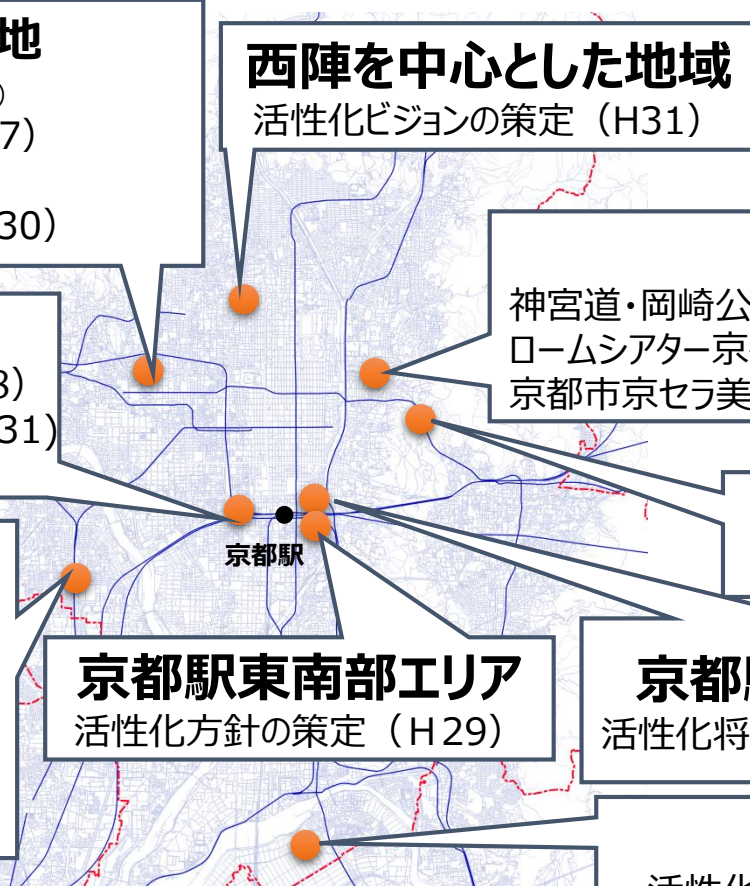
活性化方針の策定（H29）

京都駅東部エリア

活性化将来構想の策定（H31）

向島地域

活性化ビジョンの策定（H28）



④ 京プランに基づく主な取組成果

重点戦略 5

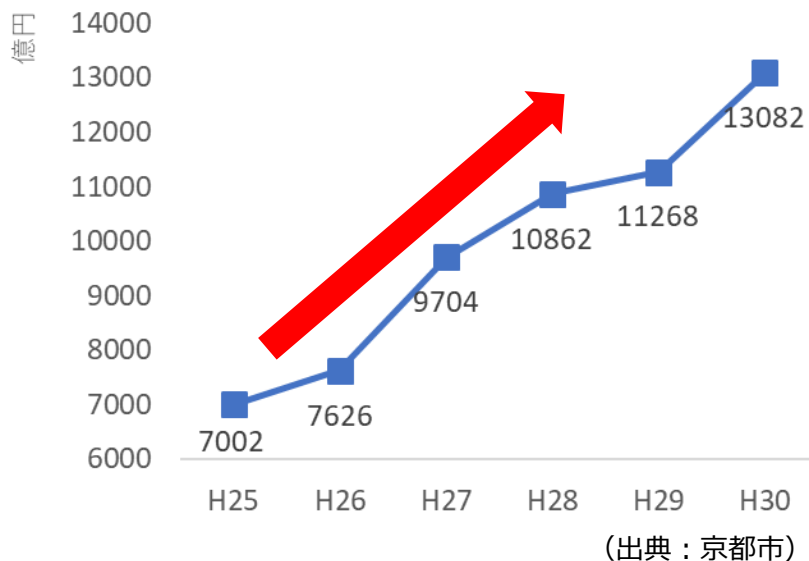
世界が共感する 「旅の本質を追求する観光戦略」

－旅の本質を堪能できる国際文化観光都市・世界に冠たる国際MICE都市へ飛躍－

◆観光消費額，宿泊客数が安定的に増加し，いずれも**過去最高値を更新**

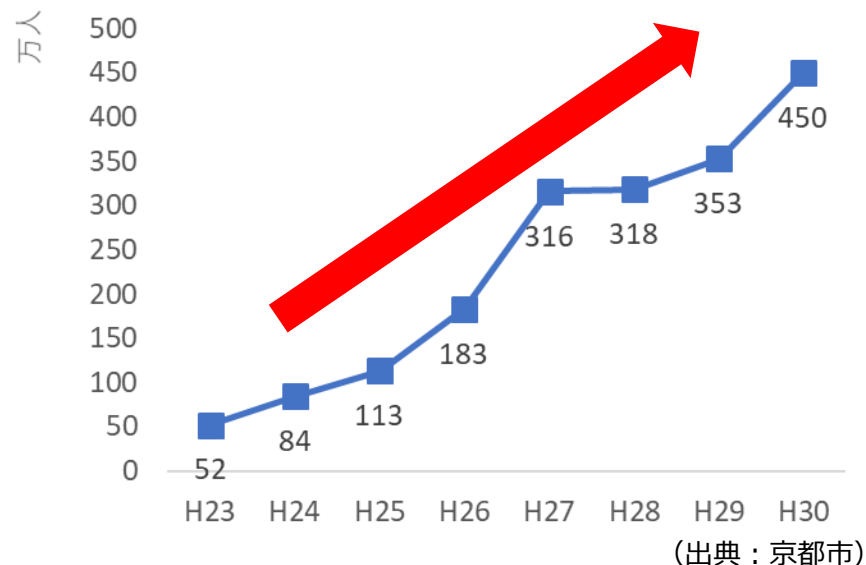
観光消費額

H30年 **1兆3,082億円**（過去最高）



外国人宿泊客数

H30年 **450万人**（過去最高）



④ 京プランに基づく主な取組成果

京都の知恵や価値観を生かした 「新産業創造戦略」

重点戦略 6

－新たな市場の開拓，産業の競争力向上，多様な雇用機会の提供により経済基盤を確立－

◆有効求人倍率が**改善**（京都府内）

0.68倍（H23年度平均） → **1.58倍**（H30年度平均）

（出典：京都労働局）

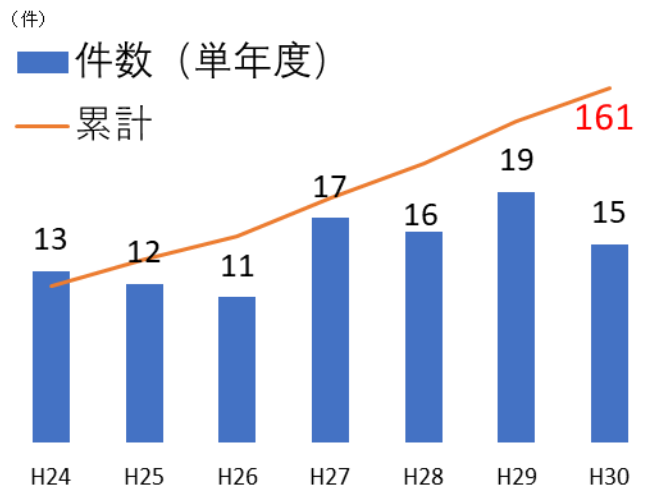
◆**創造的なグローバル企業が相次ぎ京都に進出**

スタートアップ支援環境の充実

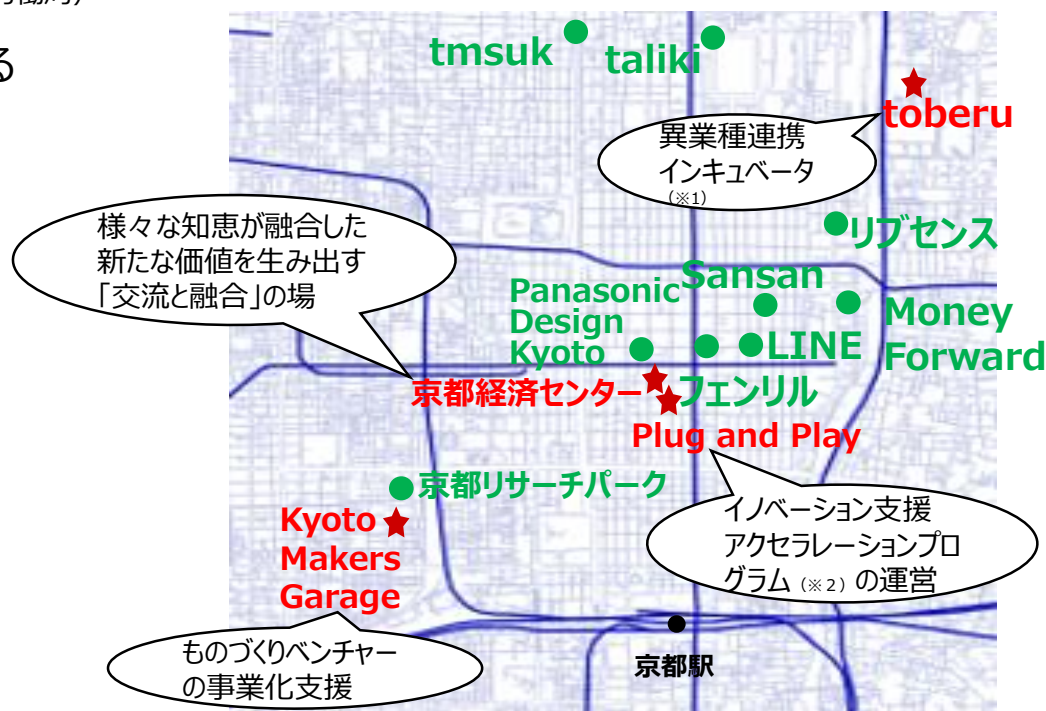
ソーシャルイノベーションの聖地としての「京都」が注目を集めている。

◆企業立地促進制度補助金（H14～）による

補助対象事業指定件数が**160件を突破**



（出典：京都市）



※1：創業間もない企業等に対し、不足するリソースを提供し、その成長を促進させることを目的とした施設

※2：大手企業がスタートアップと協業・出資などを目的とし、オープンイノベーションの一環として期間限定で行われるプログラム。

④ 京プランに基づく主な取組成果

夢と希望がもてる
「未来の担い手育成戦略」

重点戦略 7

ー地域の担い手や国際的なビジネスリーダー、オピニオンリーダーといった次代を担う人を育成ー

◆産学公連携による

総合的な留学生支援を展開

留学生数

5,592人 (H22) → **9,320人** (H30)

※日本語学校・専修学校を含めた留学生数 **12,922人** (H30)
(出典：京都市)

留学生スタディ京都ネットワーク

留学生の誘致や受入体制の整備，就業，交流等を支援。大学・短期大学，日本語学校，専修学校，企業・経済団体，行政等が参画。

STUDY KYOTO
Deep into kyoto, Deep into yourself

◆大学が**市内に進出**

37大学 (H22) → **38大学** (H30)

京都学園大学 (現京都先端科学大学)
(山ノ内浄水場跡地)

←----- 亀岡市から



京都美術工芸大学 (元京都市立貞教小学校跡地)

←----- 南丹市から



④ 京プランに基づく主な取組成果

子どもと親と地域の笑顔があふれる

重点戦略 8

「子どもを共に育む戦略」

ー安心して子どもを生み，楽しく育てることができ，子どもたちがすくすくと成長するまちづくりー

◆市立小学校の学力テストの成績は，
全教科で全国平均を大きく上回り，

政令指定都市の中で3位を獲得。

全国学力・学習状況調査等

京都市の指数（全教科合計・市立小学校）

※指数…全国平均を100とした場合の
京都市の平均正答率の値



◆京都市の保育士（※）の給与水準は

全国トップクラス(全国平均の1.4倍)

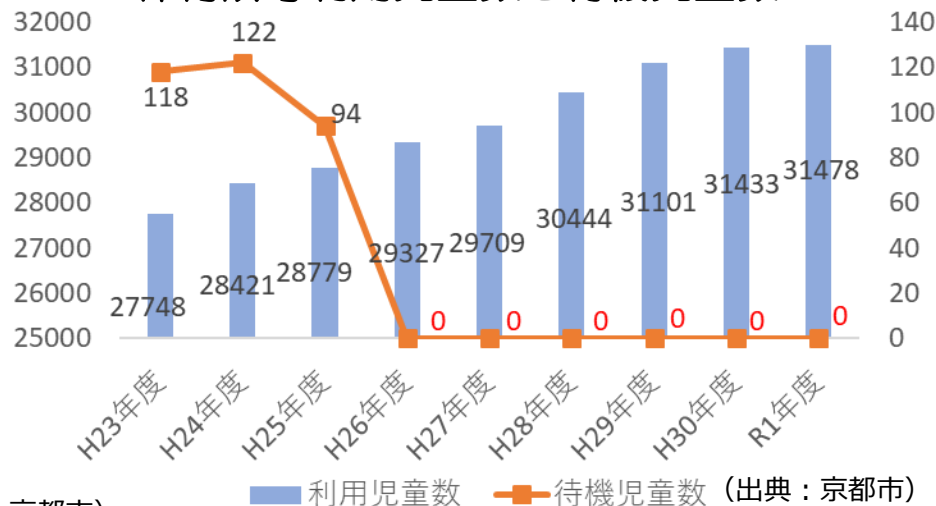
※市内の民間保育園・認定こども園の保育士

◆利用児童数が増える中，**待機児童ゼロ**を継続

・保育所等：26年度以降**6年連続ゼロ**

・学童保育：24年度以降**8年連続ゼロ**

保育所等利用児童数と待機児童数



④ 京プランに基づく主な取組成果

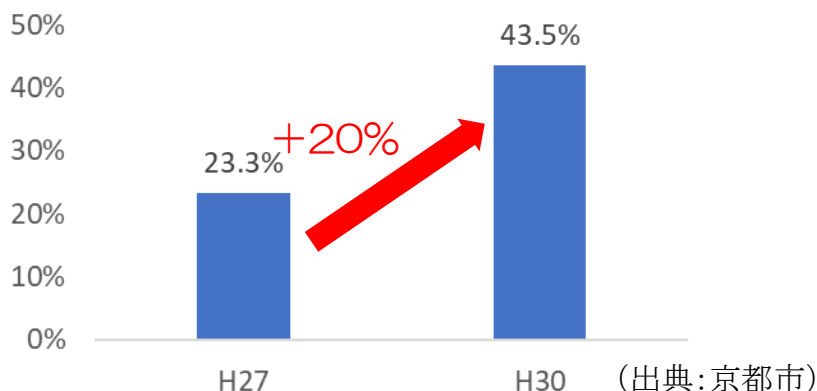
重点戦略 9

仕事と家庭，社会貢献が調和できる
「真のワーク・ライフ・バランス戦略」

－仕事・家庭生活・社会貢献等が調和し，生きがいと充実感が得られる真のWLBの定着－

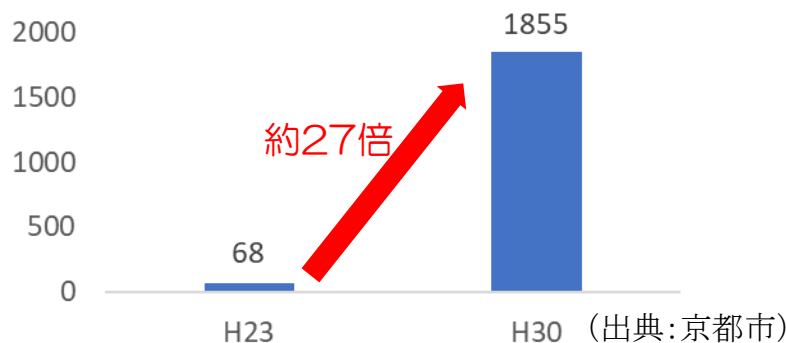
◆ 真のワーク・ライフ・バランスの周知度は**着実に向上**

「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉の周知度



◆ 推進を目指す企業が**増加**

「真のワーク・ライフ・バランス」の推進を宣言している企業数



④ 京プランに基づく主な取組成果

重点戦略10

だれもが参加したくなる 「地域コミュニティ活性化戦略」

ー地域コミュニティを活性化し，ひととひと，ひとと地域との絆や信頼を強め，自治力を高めるー

◆まちづくり活動に興味・関心のある人々が交流する

「まちづくりカフェ」を全区で実施



◆新たに地域に居住される方の自治会・町内会加入促進のため，**住宅関連団体と加入促進に関する協定を締結**

京都市における自治会・町内会の加入促進に関する協定

(平成29年3月に住宅関連4団体と締結)

＜内容＞

- ・ 事業者が，住宅を探す人への地域活動情報の提供や自治会・町内会への加入の働き掛けに協力
- ・ 京都市が，加入促進のためのポスター・チラシ，自治会・町内会への加入連絡票等を提供



④ 京プランに基づく主な取組成果

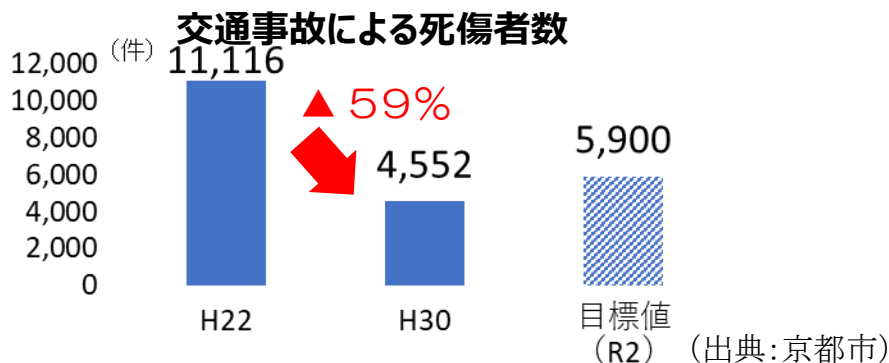
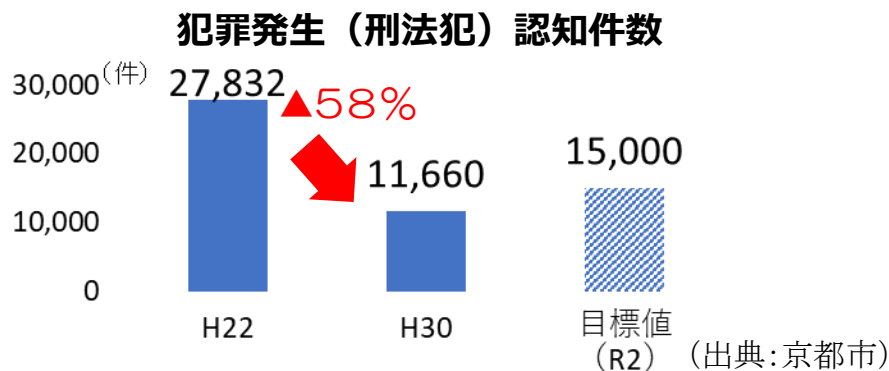
重点戦略11

安心・安全と生きがいを実感できる

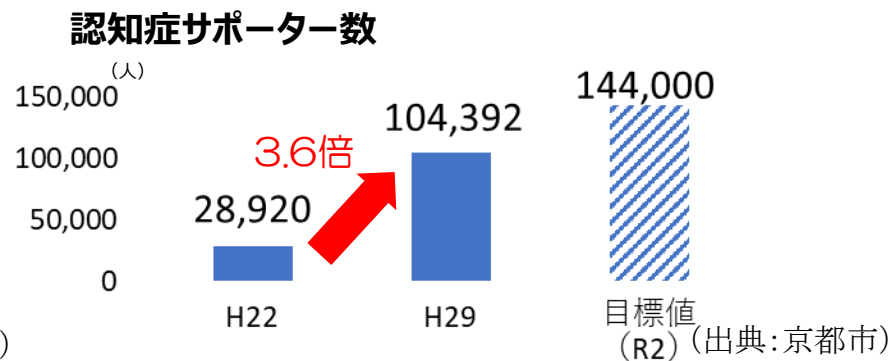
「いのちとくらしを守る戦略」

－ひとりひとりが社会の中で尊重され、役割を果たし、いきいきとした生活を送れる社会の実現－

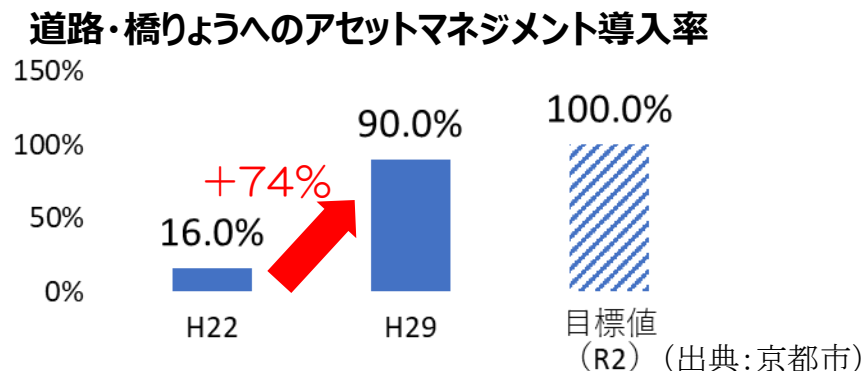
◆ 犯罪認知件数・交通事故ともに**半減**



◆ 認知症サポーター数が**大きく増加**



◆ 橋りょうの耐震補強や老朽化修繕等が**進捗**



④ 京プランに基づく主な取組成果

行政経営の大綱 (基本計画を進めていくための基盤となる行政経営の方針)

— 市民とともに京都の未来を切り拓く —

◆参加と協働による 市政とまちづくりを**着実に推進**

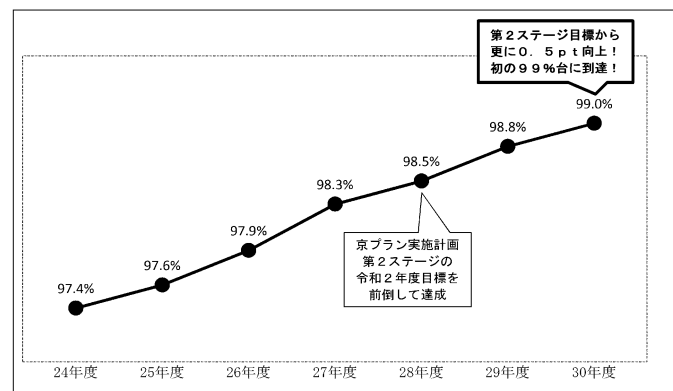
“みんなごと”のまちづくり推進事業での実現
(具体例)「スタートアップ支援ファンド」による
創業初期ベンチャー企業の支援



◆信頼される市役所づくりの取組が進展
「来庁者・窓口サービスアンケート」における
来庁者「満足度」**30年度は95%以上**
(平成28年度80%以上)

◆持続可能な行財政の確立に向けた取組を 着実に推進

◇市税徴収率が**プラン目標値を大きく達成**



◇課税自主権を活用し、**宿泊税を導入**
H30決算額 **15.4億円** R1予算額 **42億円**

◇市職員の数・人件費を**着実に削減**
H24～：(全会計) **1400人以上削減**
プランに掲げた**人件費削減の目標額を達成**

(第1ステージ 100億円以上 第2ステージ 170億円以上)

⑤ 京プランの進捗管理

1 実施計画 <第1ステージ（H24～27）> <第2ステージ（H28～32）>

京プランを推進するための事業の進捗区分について、毎月公表

第1ステージ（政策編）**計262事業**，第2ステージ（政策編）**計307事業の全てに着手済**

2 基本計画実施状況報告（毎年実施）

京プランに基づく**特に重要な事業等の進捗をまとめて**市会に報告・公表

3 政策評価（毎年実施）

京プランに掲載する**全27政策・114施策**を**客観指標**と**市民の生活実感**から**総合評価**

4 分野別計画及び審議会

京プランに基づく**約150の分野別計画**で市政を推進するとともに，

約300の審議会・懇談会等で，各分野について有識者や市民を交えて徹底した議論

5 基礎調査（平成30年度）

1万2000人の市民を対象に生活実感や都市の魅力等を尋ねるアンケート調査を行うとともに，次期基本計画策定に向けて，社会経済情勢の変化や各政策に関わる現状・動向等を把握するための**有識者ヒアリング，基礎調査を実施**

⑥ 京プランに基づく取組の評価

- 実施計画 2 期合計62の指標のうち、**22指標が目標を達成済み**，**29指標が目標に近づきつつある**。
- 政策評価では，策定当時から**全体として評価が向上** ※A～Eの5段階評価

H23	A	B	C	D	E		H30	A	B	C	D	E
政策	2	19	6	0	0	→	政策	6	17	4	0	0
施策	22	62	28	2	0		施策	30	60	22	2	0

- 基本計画点検結果報告書**（平成26年度基本計画点検委員会）でも，**「計画は全体として順調に進捗し，京都の未来像が具現化しはじめている」**と評価

1万2000人市民アンケートの結果

- ・京都の魅力
- ・日常の充実感
- ・京都市への定住意向

いずれの結果も**向上!!**

京都のまち全体に魅力を感じている人の割合：40.7%（H9）→**54.7%**（H30）
日常生活に充実感を感じている人の割合：65.6%（H9）→**73.5%**（H30）
定住意向を持つ人の割合：66.5%（H9）→**72%**（H30）

⑥ 京プランに基づく取組の評価

- ・日本の都市特性評価2018
(全国主要72都市対象)
- ・全国市区・サステナブル度・SDGs先進度調査
(全国815市区対象)
- ・Travel + Leisure (アメリカの旅行雑誌)
人気観光都市ランキング2014, 2015

京都市が

1 位

を獲得!!



「全国815の市区の持続可能性・SDGs先進度調査」で
(日経新聞)

京都市が1位に!





これらの取組により、

現計画に掲げた京都の未来像は一定具現化しつつある。



第1部

1 京プランの総括

2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

3 審議の進め方

4 時代の潮流

(1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化

(2)市政に特に関わりの深い変化

(3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

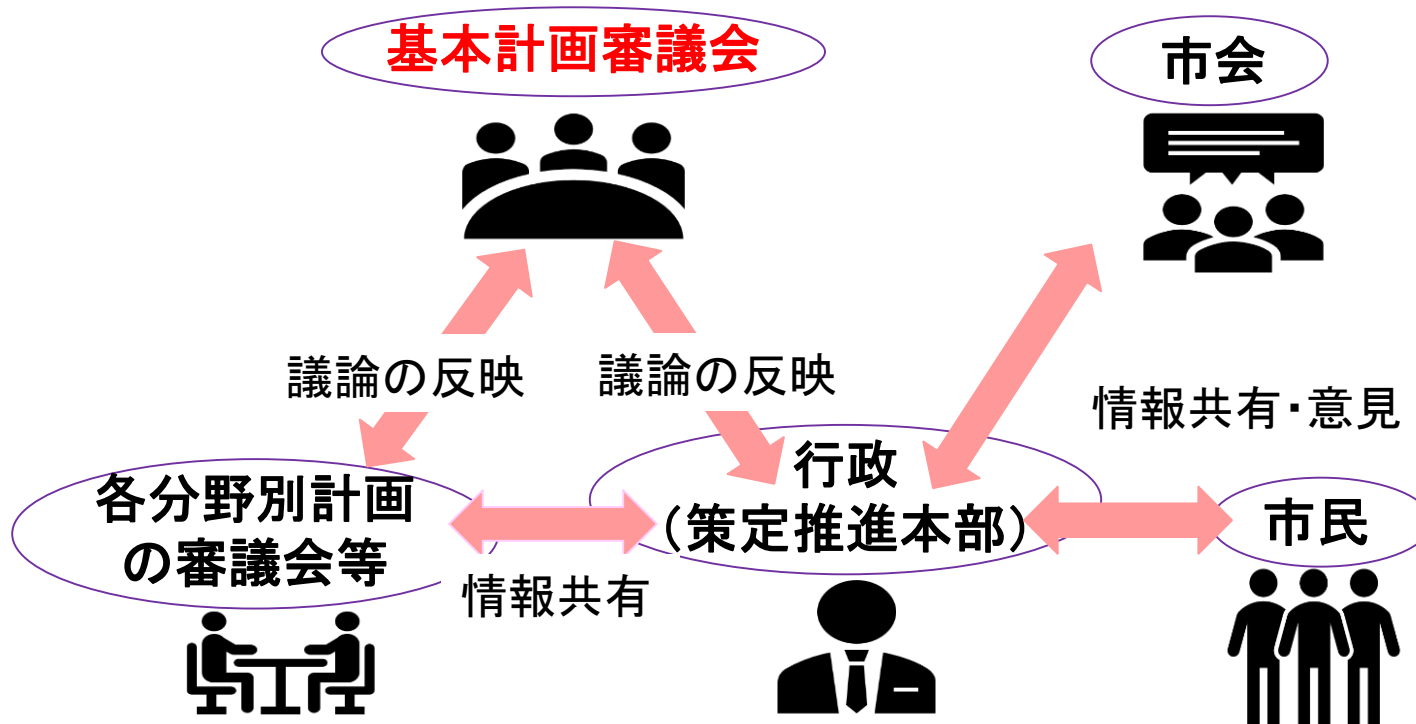
① 次期基本計画の在り方

- 1 基本構想の終期に合わせ，計画期間は，
令和3（2021）年度～令和7（2025）年までの5年間とする。
- 2 徹底した市民参加の下，丹念な議論を経て策定した
京プランの構成（京都の未来像，重点戦略，政策の体系等）を継承し，
時代の潮流を踏まえて**内容を進化**させる。

	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
基本構想	基本構想の計画期間（～R7年）							
基本計画	京プランの計画期間（～R2年度）							
	基礎調査	審議会等での議論→議決		次期基本計画の計画期間（～R7年）				

② 次期基本計画策定の進め方

- 1 各種分野別計画等における議論を最大限活用し、基本計画審議会において、**重点戦略を中心に未来志向で京プランの進化を議論**
- 2 **行政において**、新たな政策立案に向けて**徹底した議論**を重ね、審議素材を提示
- 3 **徹底した市民参加**で多くの市民の意見を伺うとともに、**市会とも十分に情報共有**



③ 市民参加事業案

目的

主体的に行動する市民の姿を示した『みんなごと』の実践的な取組を提示し、共感の輪を広げることで、市民の自発的な行動につなげていく。

具体的な若手市民・市職員グループの活動を通じて、基本計画に掲げられた「市民の役割」を例示することで、策定過程から次期基本計画の内容を市民と共有。

主体

みんなが自分ごととして日々できることを示す
若手「市民」グループ

★それぞれの活動において基本計画の情報発信を行う



社会に関心を持ちながら自主的に研鑽を積む
若手「市職員」グループ

★市民向けイベント等で基本計画について紹介する

アドバイザー【ex-35】

現計画策定時に「未来の担い手・若者会議U35」として、基本計画策定段階から情報発信等に取り組んだメンバーが、前回の活動を踏まえて、活動への助言や支援を行う。

松山 大耕 氏 (妙心寺隠院福住職)
竹内 弘一 氏 (KBS京都キャスター)

等

助言

スケジュール

つなぐ・ひろげる

参加を呼び掛け

若手市民グループからの紹介で主体となるグループを拡げていく

基本計画の情報を発信，事業内容を検討

それぞれの活動を通じて基本計画の情報発信や連携事業の内容を検討

交流会の実施

グループ間の交流・協働を促進し、自発的な行動を拡げる
未来の京都へのアイデアを集める

審議会にこれらの活動状況や若者のアイデア等を情報提供

伝える・話す

基本計画及び実施計画のパブコメ期間中等に事業実施

・SNS等のメディアを活用した情報発信

・若手市民・市職員グループが様々な場所でイベントを実施

・個人事業主，障害のある方，学生など多様な人々から意見を得るための「出前パブコメ」の実施



令和元年度

令和2年度

第1部

- 1 京プランの総括
- 2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

3 審議の進め方

4 時代の潮流

- (1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化
- (2)市政に特に関わりの深い変化
- (3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

① 審議の進め方

第1回(8/9)

- 京プランの総括
- 次期計画策定に当たっての考え方
- 今後5年を考えるキーワード

第2回(8/29)

- 重点戦略について

第3回(12月頃)

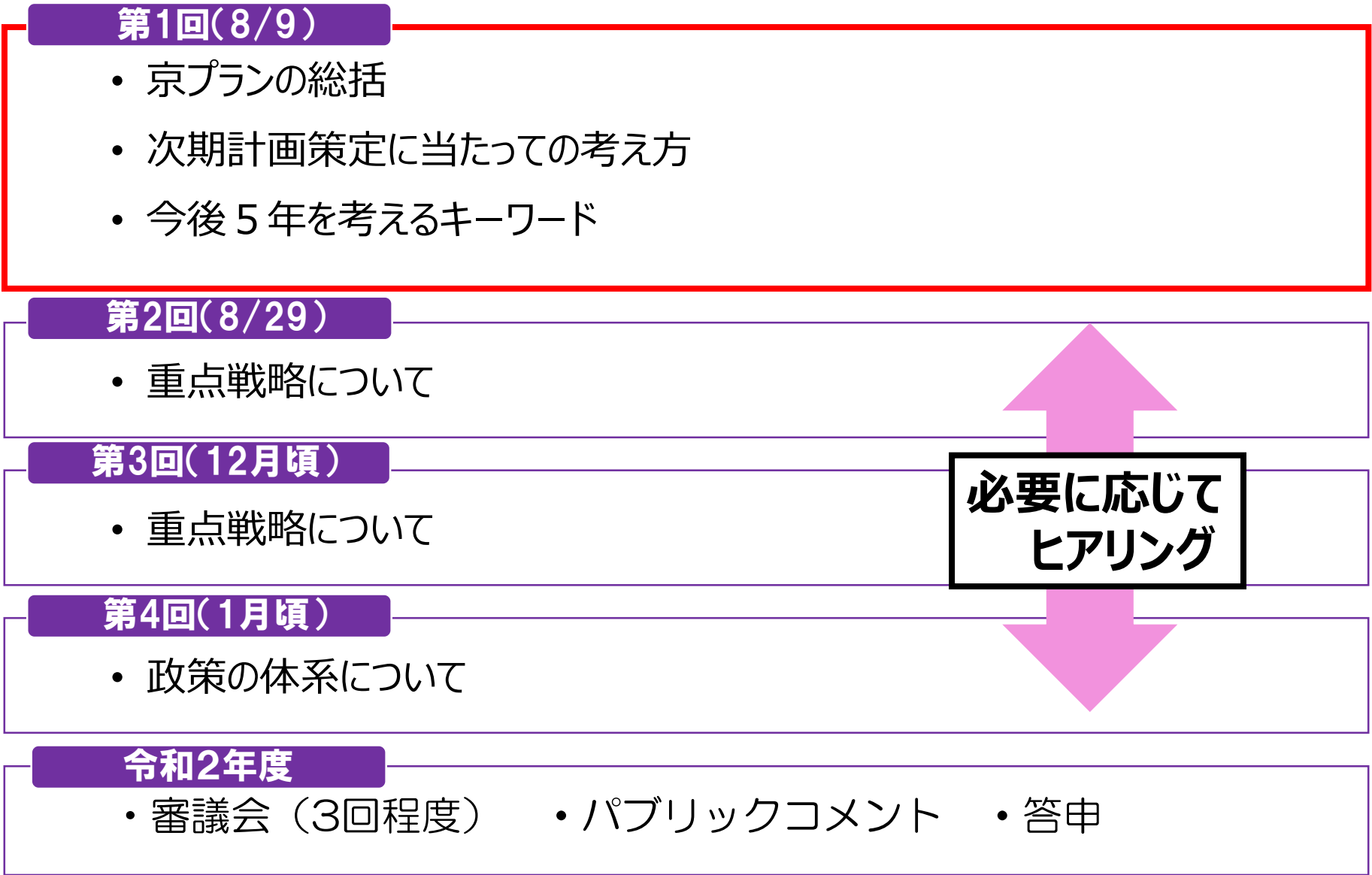
- 重点戦略について

第4回(1月頃)

- 政策の体系について

令和2年度

- 審議会（3回程度）
- パブリックコメント
- 答申



必要に応じて
ヒアリング

第1部

- 1 京プランの総括
- 2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

- 3 審議の進め方
- 4 時代の潮流

(1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化

(2)市政に特に関わりの深い変化

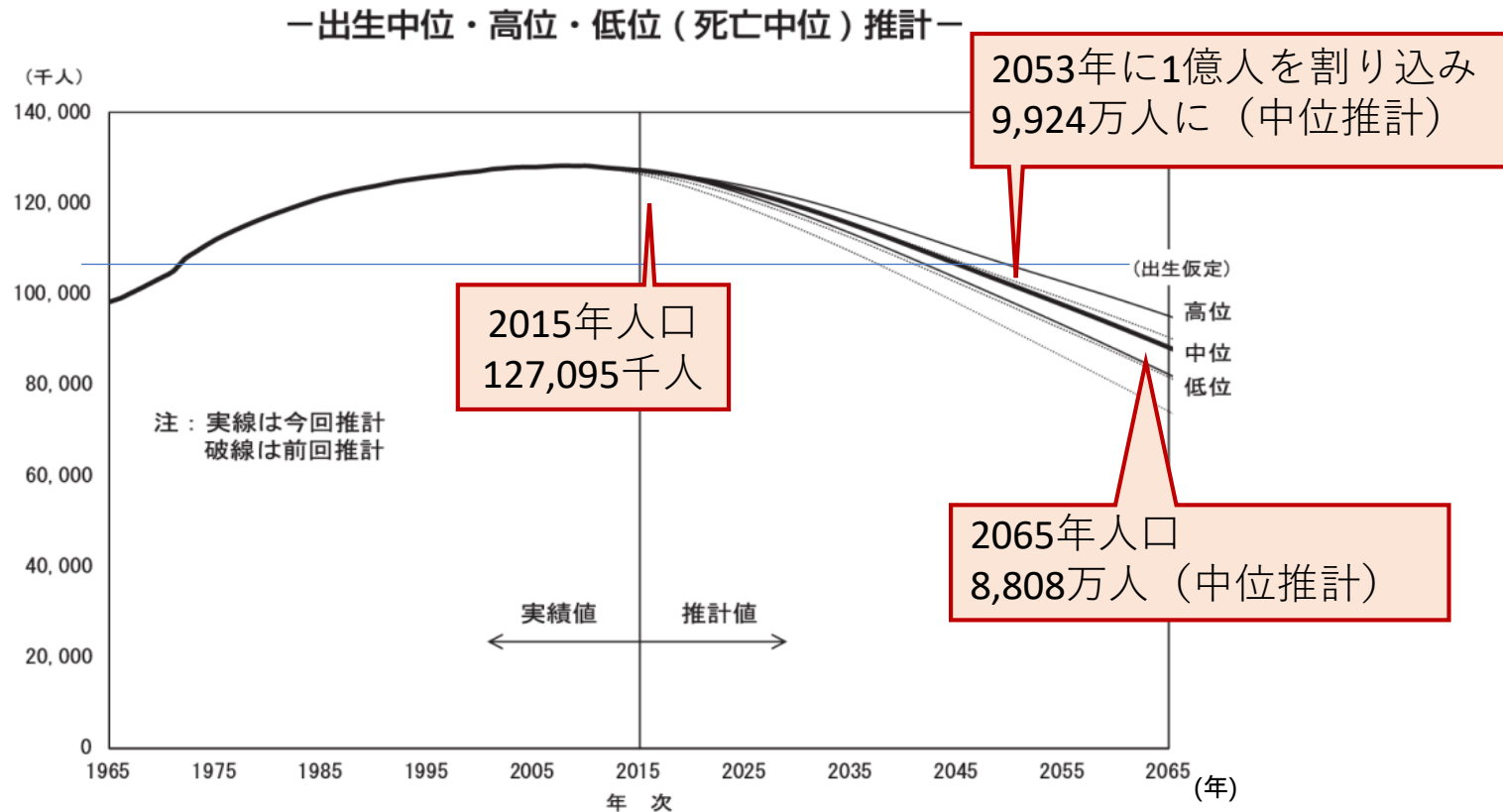
(3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

① 人口減少と少子高齢化

<日本の人口>

- ◆ **日本の人口は既に減少局面**に入っており、2010年から2015年にかけて96万2千人減少（2010年:128,057千人→127,095人）
- ◆ **2053年には1億人を割り込み**、2065年には8,808万人にまで減少すると見込まれている。

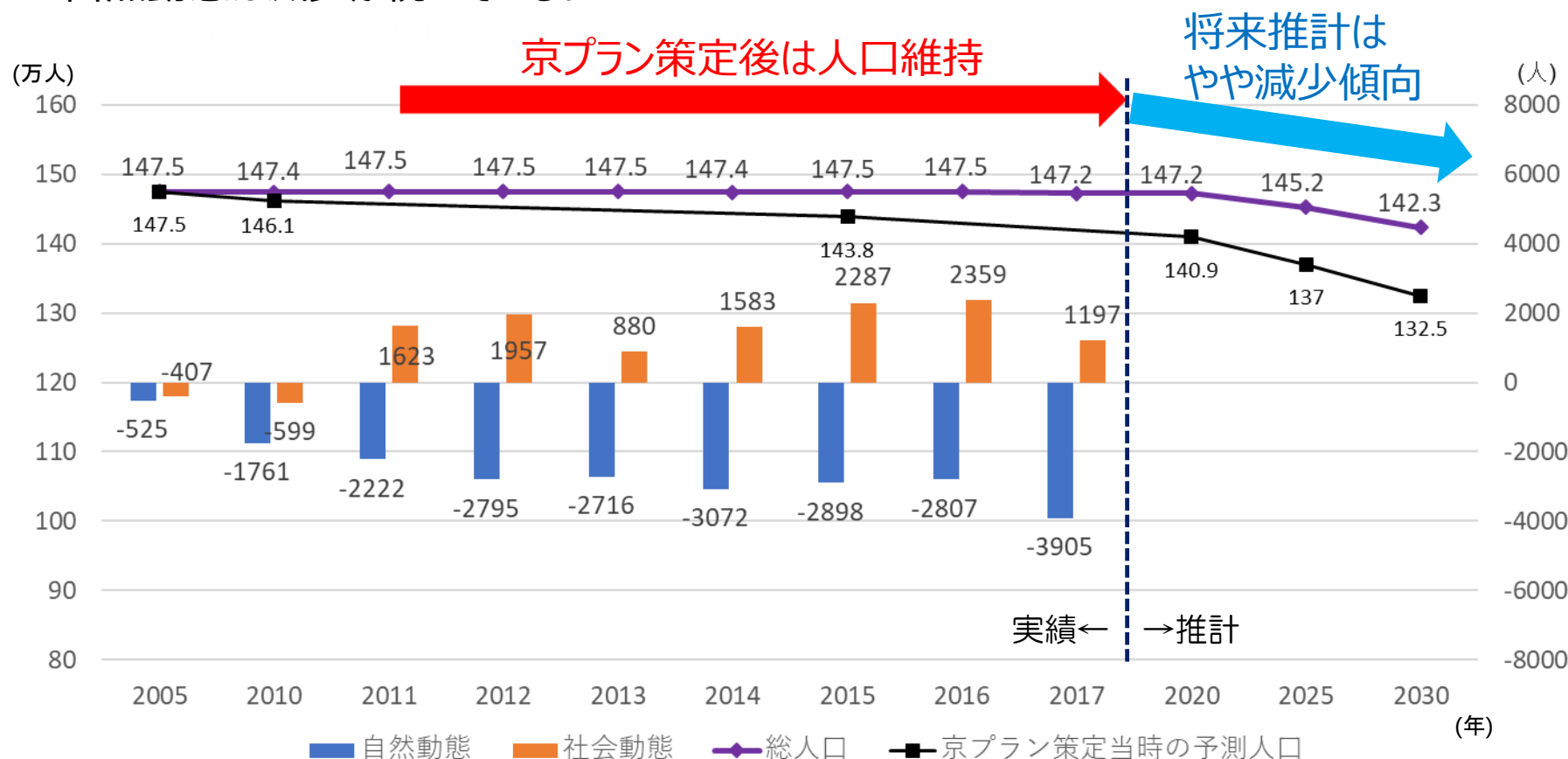


（出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29（2017）年推計）」）

① 人口減少と少子高齢化

＜京都市の人口＞

- ◆京プラン策定時の予測と比較すると、**人口減少には一定の歯止めがかかっている。**
- ◆京プラン初年度の2011年から社会動態が増加に転じているものの、自然動態は減少が続いている。



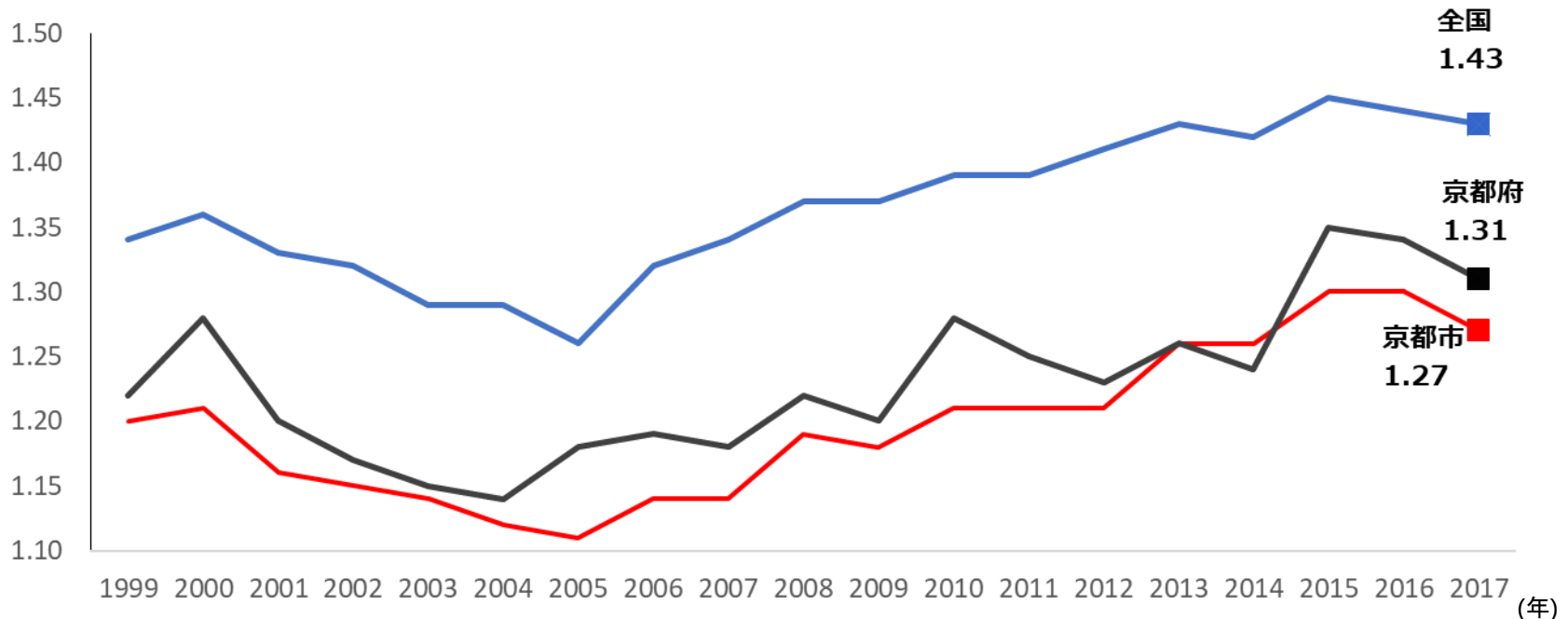
(出典:京都市(前年10月から当年9月までの人口推移))
 ※将来推計は国立社会保障・人口問題研究所
 京プラン策定時の予測人口は、京都市独自推計

① 人口減少と少子高齢化

<合計特殊出生率>

- ◆ 全国の合計特殊出生率は2005年の1.26を底として徐々に上昇していたものの、
近年は3年連続で減少
- ◆ **京都市、京都府ともに全国値よりやや低く推移**

全国、京都市、京都府の合計特殊出生率の推移



(出典: 国及び府は厚生労働省「人口動態統計」より作成,
京都市は「平成29年京都市の合計特殊出生率」より作成)
※ 平成30年度の全国及び京都府の数値はいずれも概数

① 人口減少と少子高齢化

＜京都市の年齢3区分人口比率＞

京都市の2015→2045年の変化

①生産年齢人口（15～64歳）

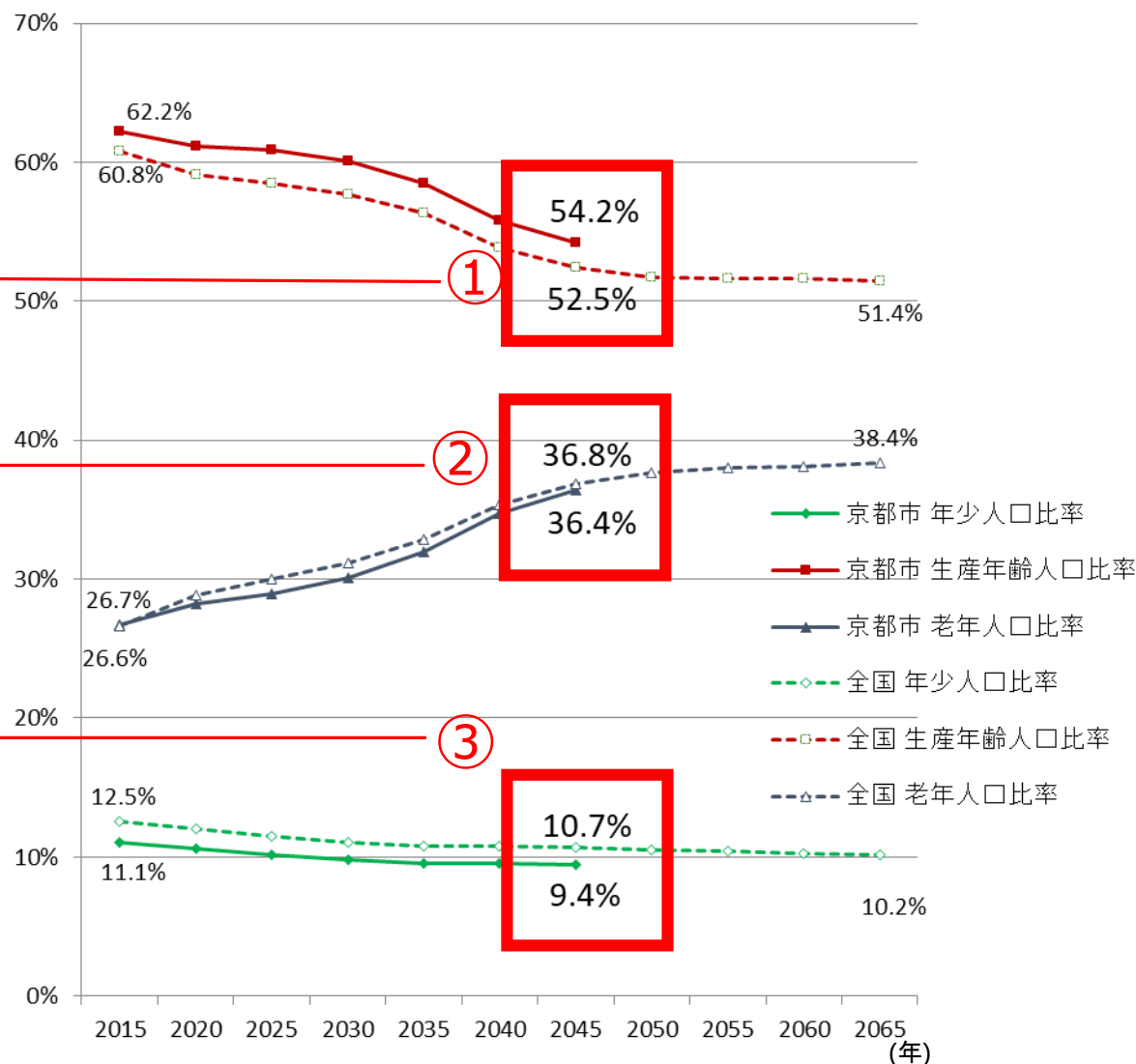
は**62.2%→54.2%に減少**
(全国よりやや高い。)

②老年人口（65歳以上）比率

は**26.7%→36.4%に増加**
(全国よりわずかに低い。)

③年少人口（0～14歳）比率

は**11.1%→9.4%に減少**
(全国よりわずかに低い。)

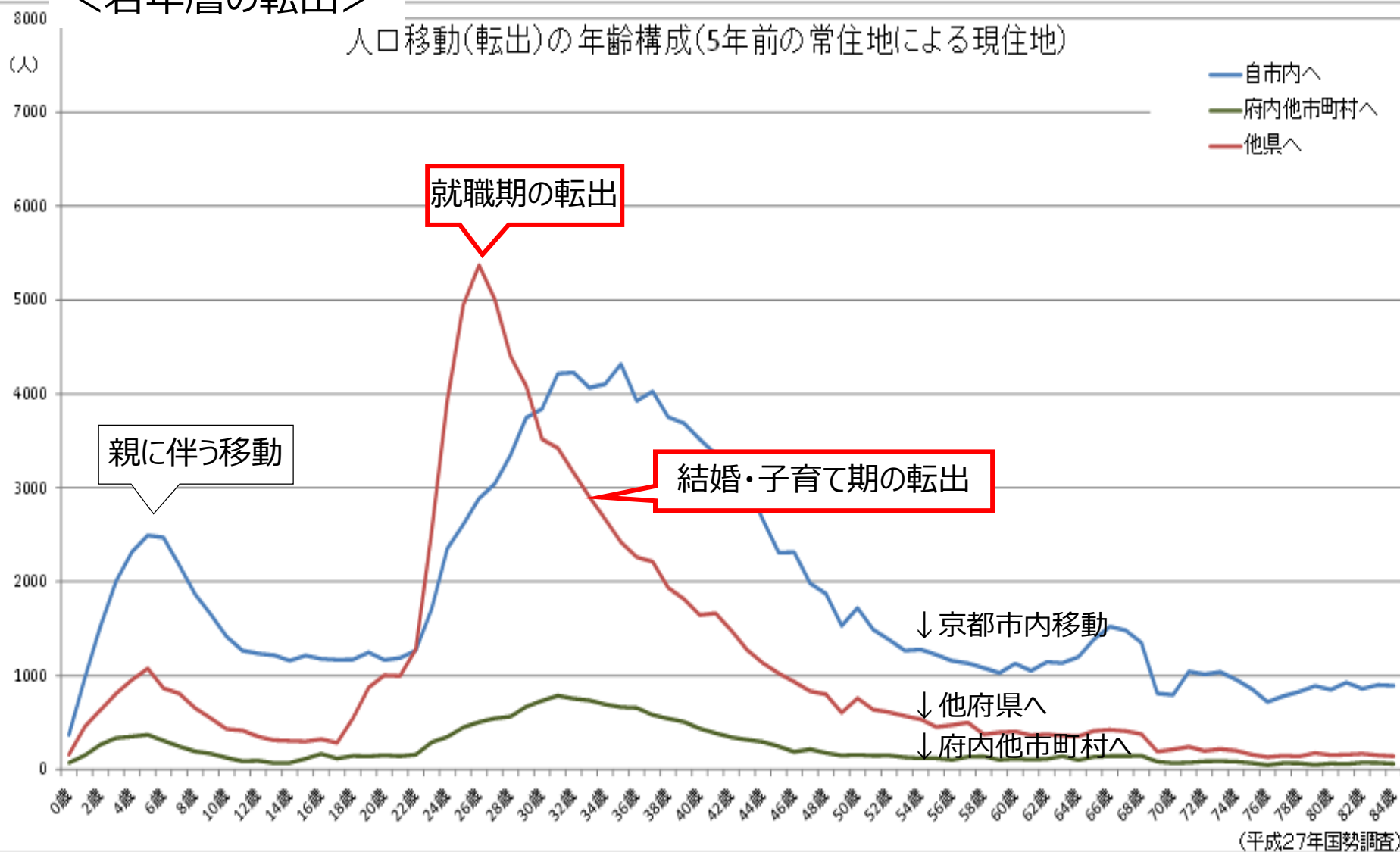


(出典: 国立社会保障・人口問題研究所 前掲より作成)

① 人口減少と少子高齢化

＜若年層の転出＞

人口移動(転出)の年齢構成(5年前の常住地による現住地)

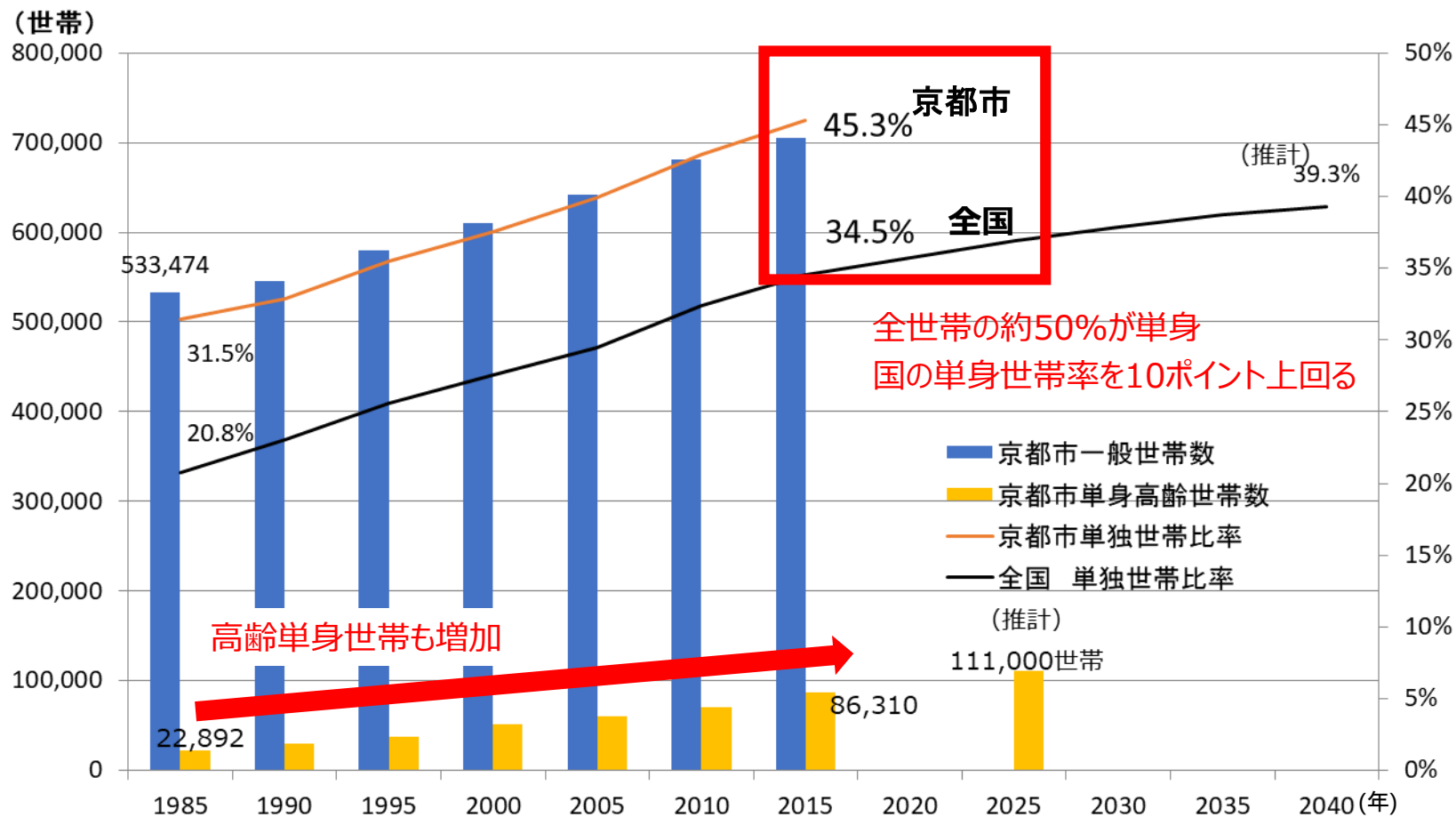


① 人口減少と少子高齢化

<単身化>

◆核家族化を超え、**単身化と言える状況が進行。**

全国平均を10ポイント上回り、50%に近づいている。

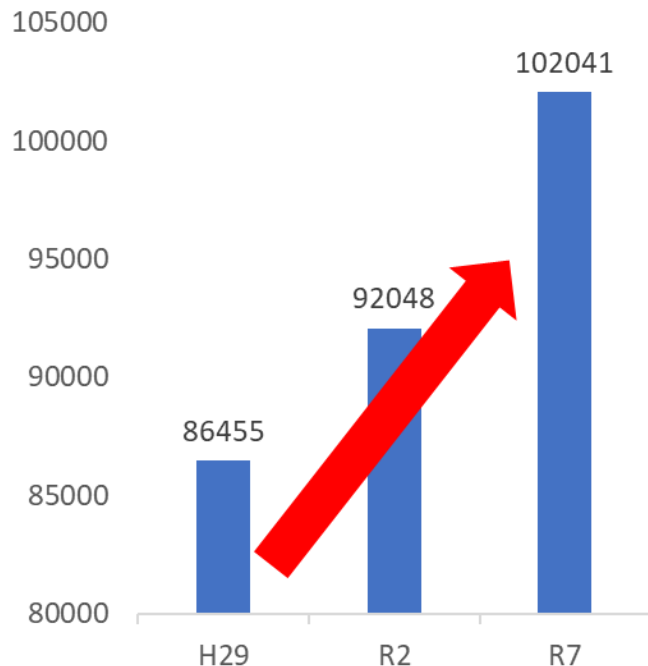


(出典:2015年までは国勢調査, 2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』(2019(平成31)年推計)より作成。2025年の単身高齢世帯数は国勢調査を基に京都市で推計)

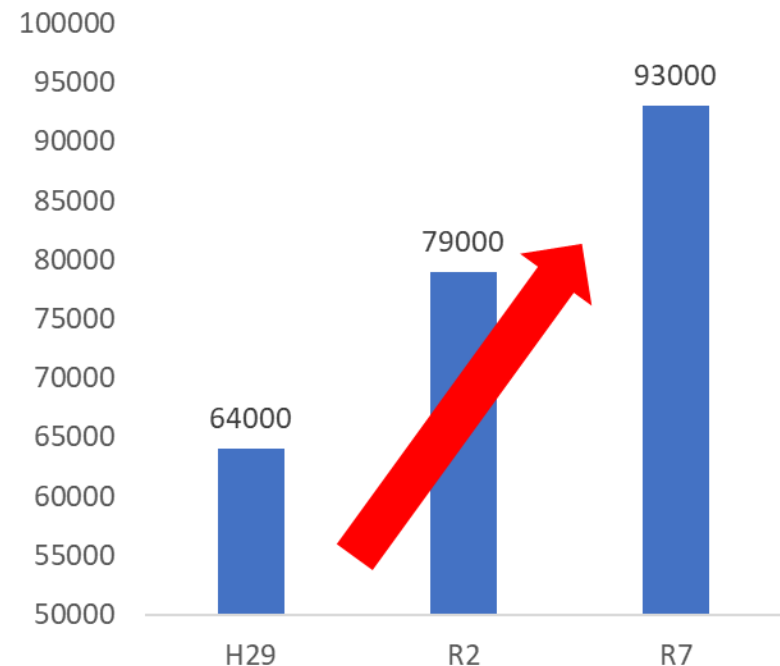
① 人口減少と少子高齢化

<高まる介護ニーズ>

- ◆ 高齢化が進展する中、「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者となる
令和7年には、本市の要支援・要介護認定者数及び
認知症高齢者数は、それぞれ**約10万人に達する見込み**。



本市の要支援・要介護認定者数の推移と今後の推計
(出典：京都市)



本市の認知症高齢者数の推移と今後の推計
(出典：京都市)

① 人口減少と少子高齢化

<8050問題の顕在化>

◆**40歳～64歳では、全国で61.3万人がひきこもり状態で、約4割が10年以上ひきこもっている**とされている。

◆長期に及ぶひきこもり、介護、生活困窮、地域との繋がりの希薄化等の複合的な課題が生じている。

ひきこもり状態の方の推計(※1)

	15歳～39歳	40歳～64歳	合計
全国(※2)	54.1万人	61.3万人	115.4万人
【参考】京都市(※3)	6.6千人	6.9千人	13.5千人

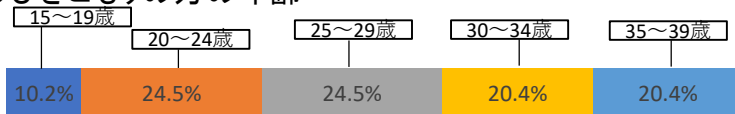
※1 狭義のひきこもり(家から出ない、近所のコンビニ等には出かけるが普段は家にいる。)及び準ひきこもり(趣味に関する用事の時だけ外出するが普段は家にいる。)の状態が6箇月以上続いている方の合計値(推計)

※2 15歳～39歳:(内閣府 若者の生活に関する調査報告書(平成28年9月)) 40歳～64歳:(内閣府 生活状況に関する調査報告書(平成31年3月))

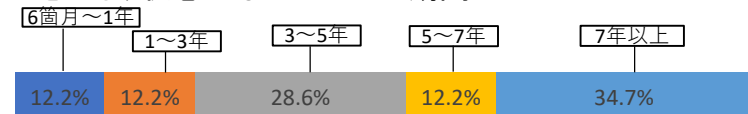
※3 全国の推計値の割合を本市の各年代の推計人口に単純に当てはめた参考値(非公表)

15歳～39歳のひきこもりの方の状況

○ひきこもりの方の年齢



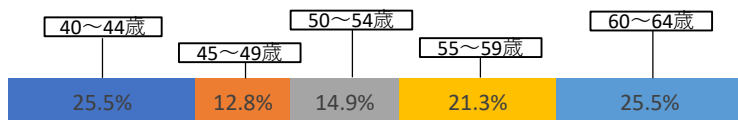
○ひきこもり状態になってからの期間



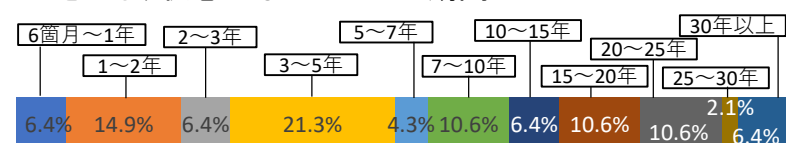
(出典：内閣府「若者の生活に関する調査報告書(平成28年9月)」)

40歳～64歳のひきこもりの方の状況

○ひきこもりの方の年齢



○ひきこもり状態になってからの期間

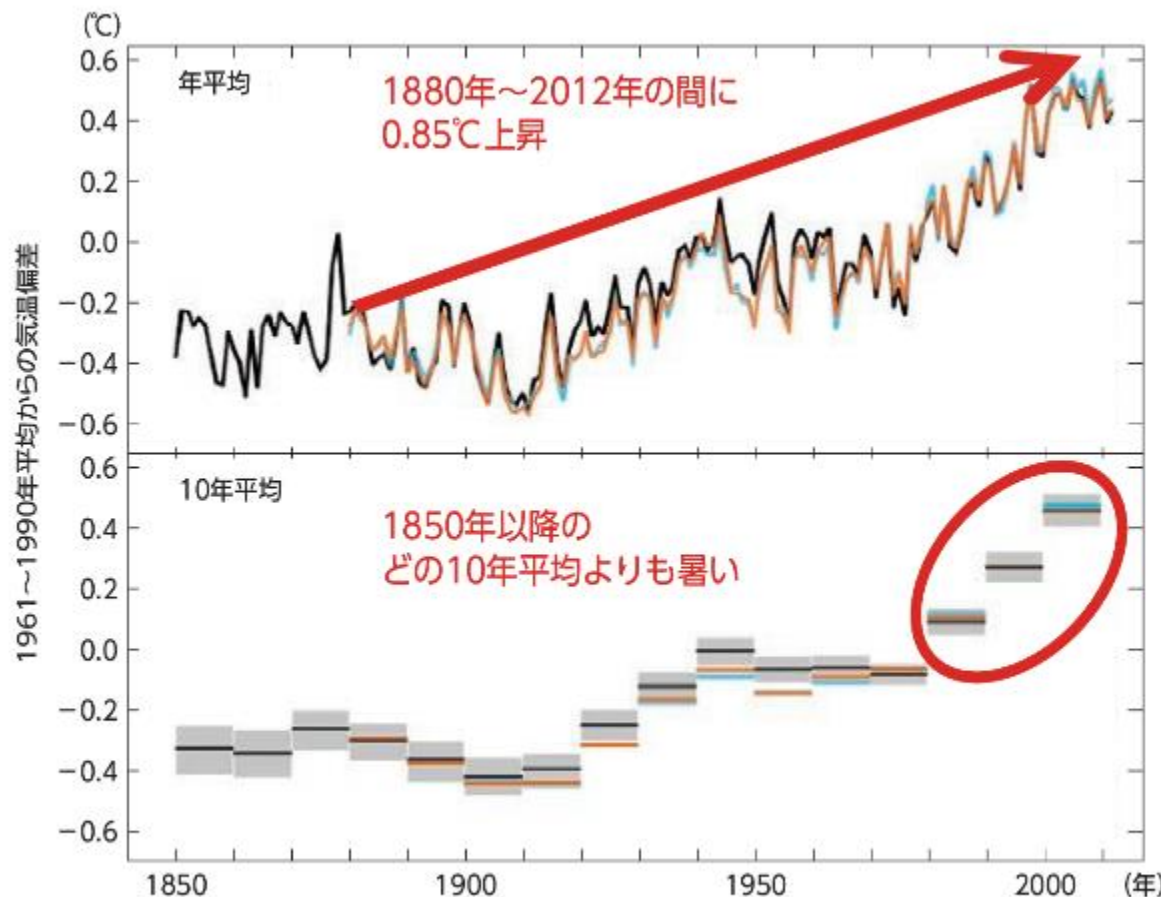


(出典：内閣府「生活状況に関する調査報告書(平成31年3月)」)

② 地球温暖化の加速

<温暖化に関する世界と京都の動向>

図1-1-2 世界平均地上気温の偏差 (1850年～2012年)



注：線の色の違いは、使用している観測データのの違い。

資料：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）「第5次評価報告書第1作業部会報告書」より環境省作成

（出典：環境省「平成30年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」より）

◆京都議定書（平成9年12月）

◆パリ協定（平成28年11月）

- ・産業革命前からの気温上昇を2℃より十分下方に保持。1.5℃に抑える努力を追求。
- ・**今世紀後半に温室効果ガス排出の正味ゼロ**を目指す。

◆持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言（平成29年12月）

- ・京都議定書誕生20年を機に、**2050年の世界の都市のあるべき姿を示す。**

◆IPCC1.5℃特別報告書（平成30年10月）

- ・IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が、産業革命前に比べ、世界の平均気温が既に1℃上昇し、「気温上昇が**1.5℃と2℃では地球環境への影響が顕著に異なること**」、「1.5℃以下に抑えるには、**2050年頃までにCO₂排出量正味ゼロ**とすることが必要」と報告。

◆IPCC総会の本市開催（令和元年5月）

総会を契機に2つの成果が誕生

<IPCC京都ガイドライン>

- ・総会で、2020年から本格始動するパリ協定の取組に不可欠な**各国の温室効果ガスの算定のためのガイドライン**、いわゆる「**IPCC京都ガイドライン**」が採択。

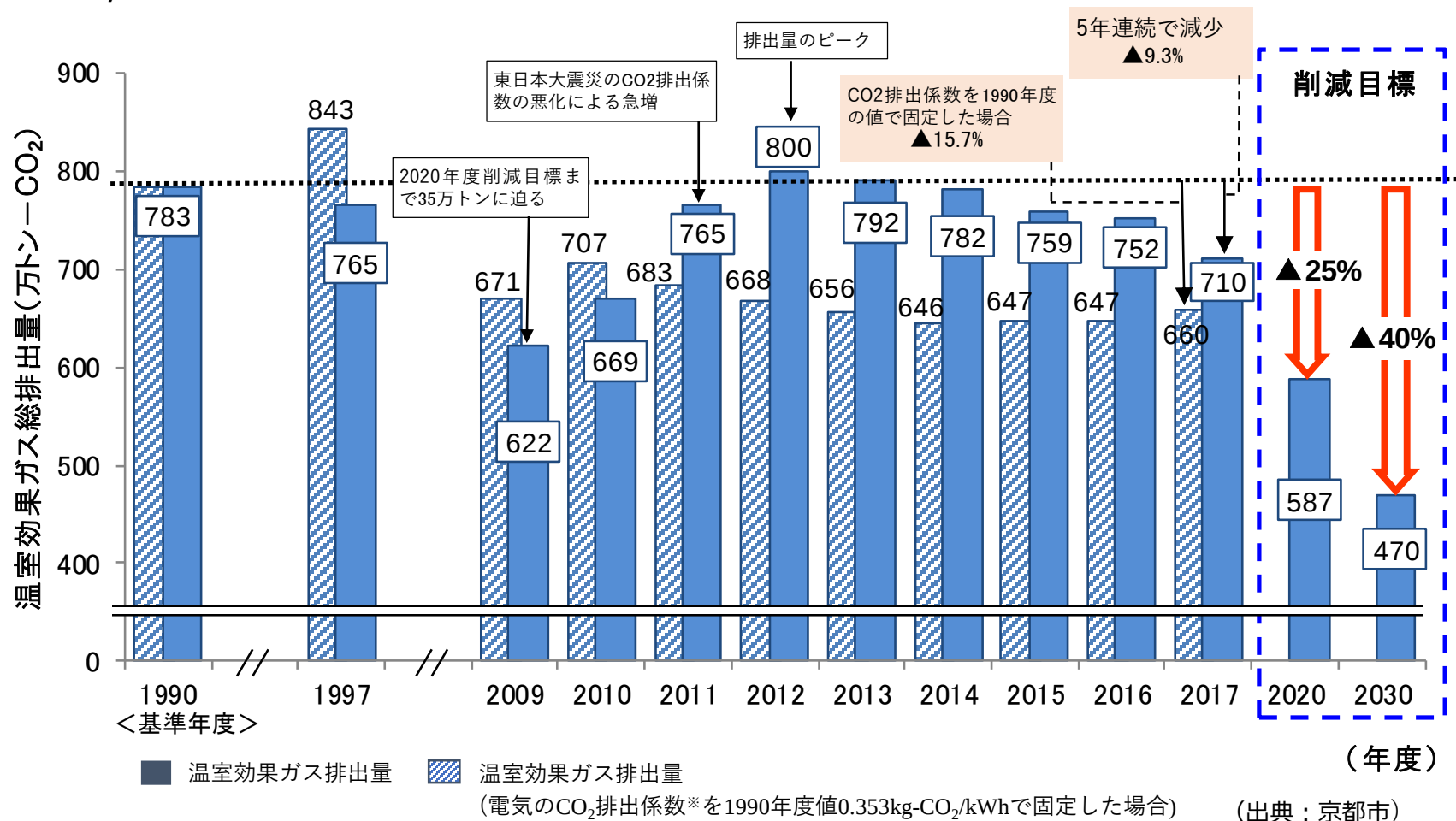
<1.5℃を目指す京都アピール>

- ・本市開催の記念シンポで、世界の**平均気温の上昇を1.5℃に抑えるべく、2050年頃までにCO₂排出量正味ゼロとするため、あらゆる方策を追求すること**を京都から世界に向けてアピール。

② 地球温暖化の加速

＜京都市の温室効果ガス排出量＞

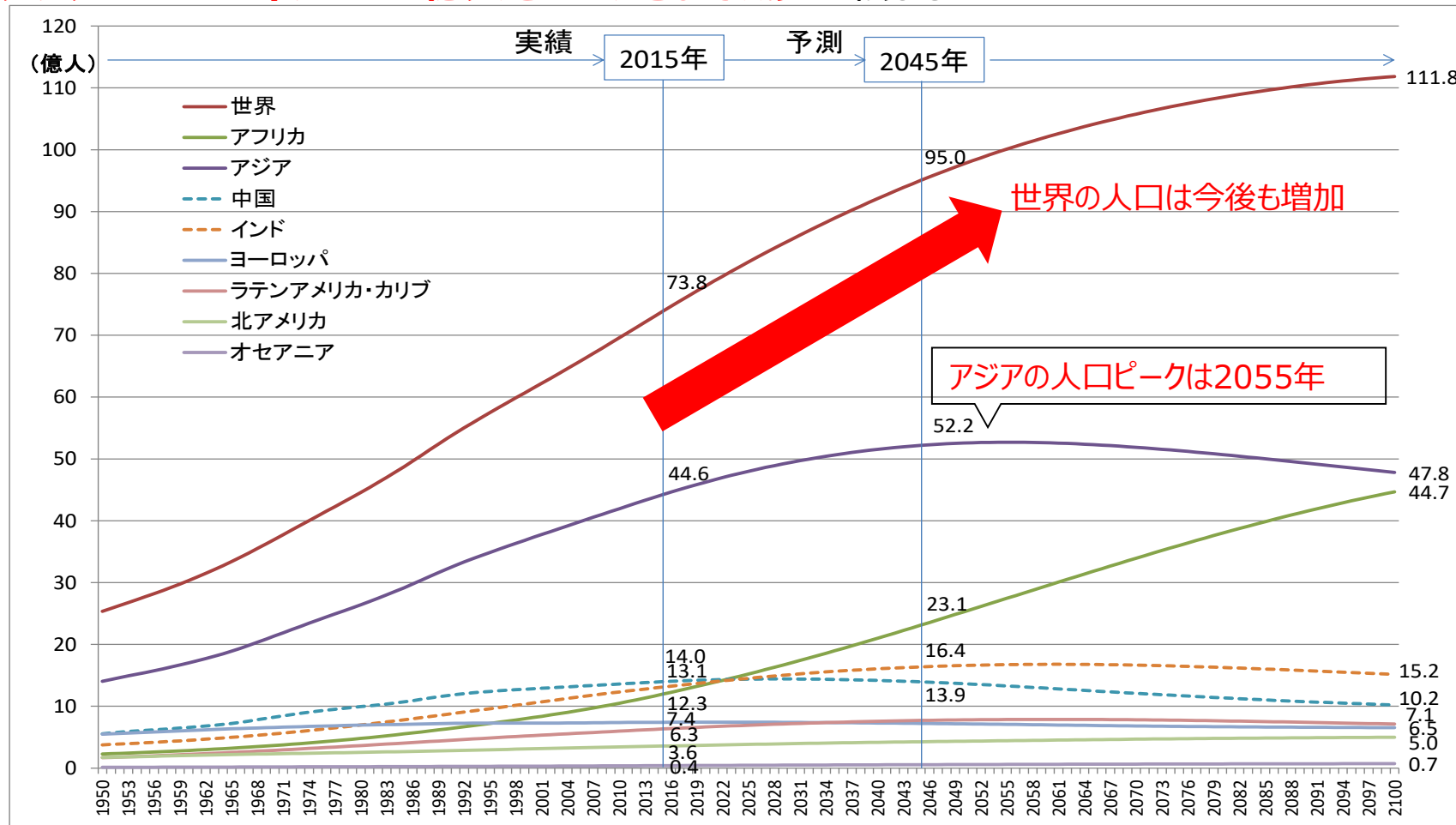
- ◆京都市の2013年度以降の温室効果ガス排出量は**前年度比で減少に転じている**。
- ◆ただし、**削減目標の達成に向けてはこれまで以上に対策が必要**。



③ グローバル化の進展

<世界人口の見通し>

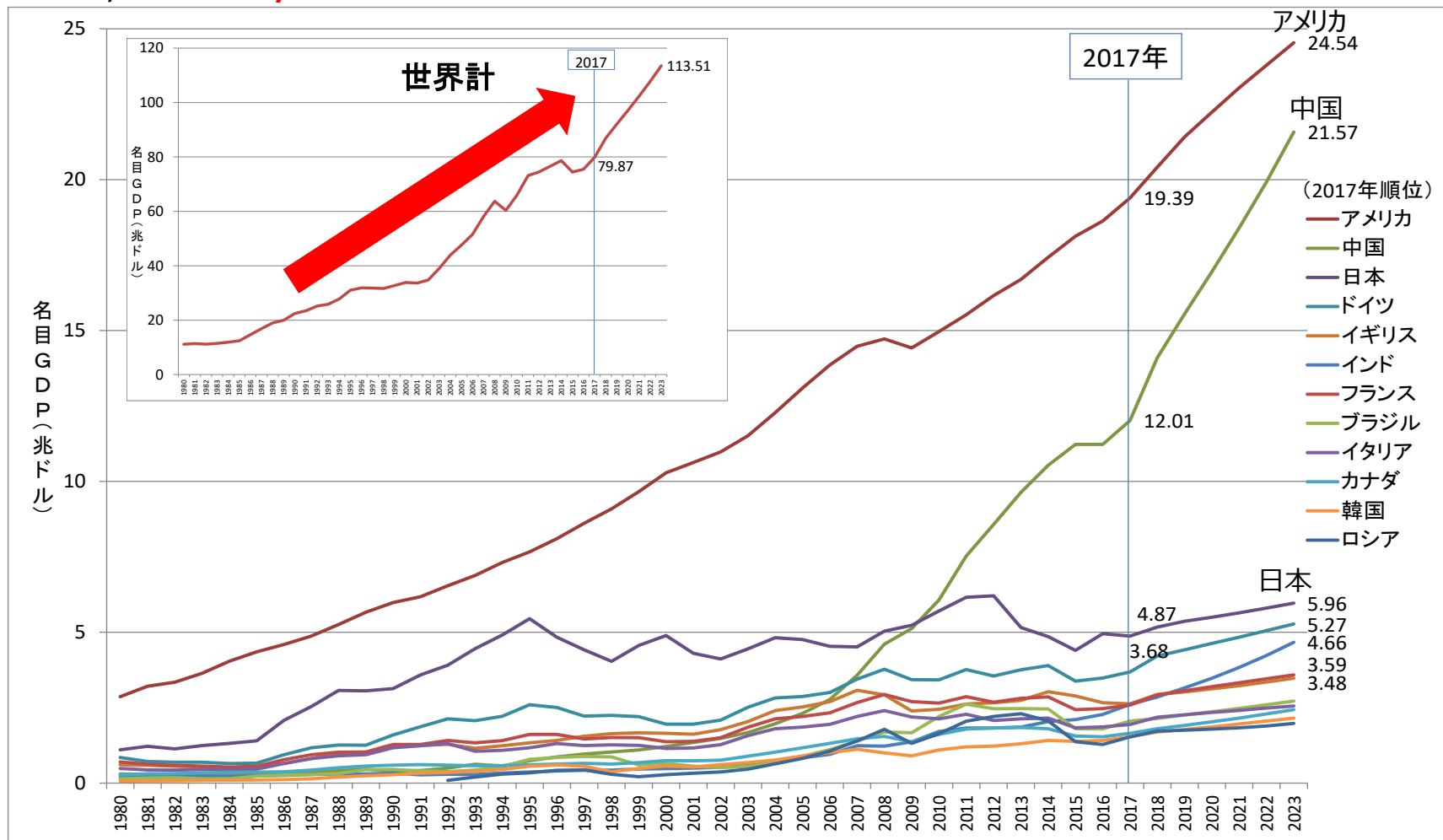
- ◆ **世界人口は2015年に73.8億人。2045年に95億人，2100年に111.8億人と推計。**
アジアは2055年に52.2億人をピークとして減少に転じる。



③ グローバル化の進展

<世界のGDPの伸び>

- ◆ 世界の名目GDPの将来予測では、**今後も順調に伸びる**と見込まれている。
- ◆ 特に、**アメリカ、中国**が引き続き大きく伸長。



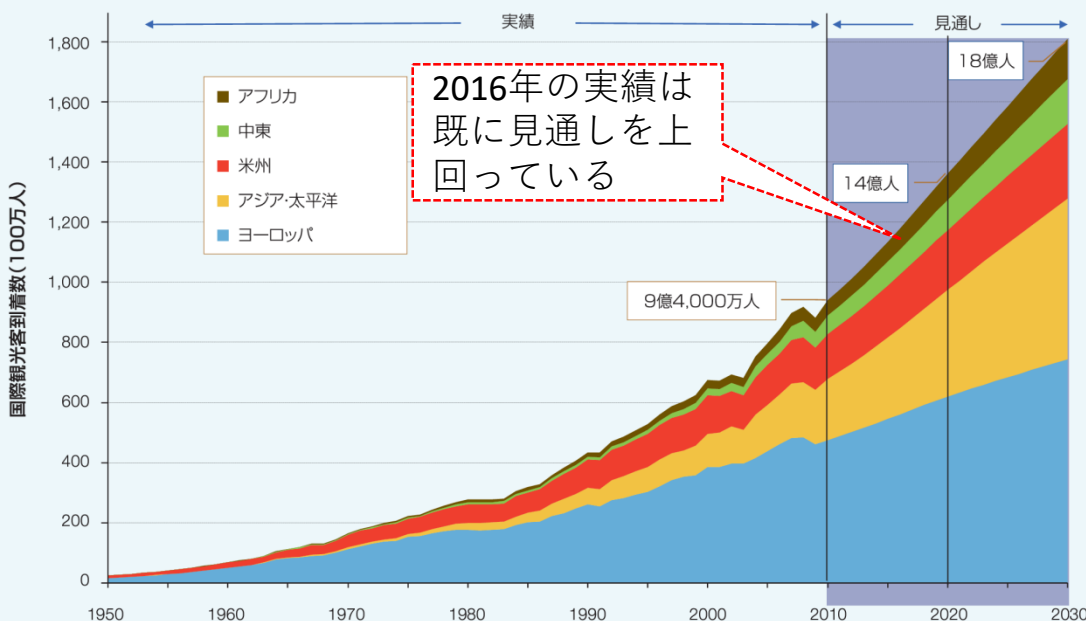
(出典:IMF「World Economic Outlook Databases April 2018」より作成)

③ グローバル化の進展

<世界の観光客>

- ◆ **世界の観光客到着数は今後も大きく増加し、2030年には18億人に達すると見込まれている**

UNWTO2030長期予測：1950-2030年の実績と見通し



出典：国連世界観光機関 (UNWTO) ©

(出典：国連世界観光機関「UNWTO Tourism Highlights 2017 Edition 日本語版」) 注) 上記予測は同機関が2012年に発表したもの

- ◆ **日本への観光客は大きく伸び、世界でのシェアも高まっている**

国際観光客到着数 (百万人)

	2010	2014	2015	2016
世界	953	1,138	1,189	1,235
対前年伸び率(%)	—	4.0	4.5	3.9
アジア・太平洋	208	269	284	308
対前年伸び率(%)	—	6.1	5.4	8.6
北東アジア	112	136	142	153
対前年伸び率(%)	—	7.3	4.3	8.6
日本	8.6	13.4	19.7	24.0
対前年伸び率(%)	—	29.4	47.1	21.8
対世界シェア(%)	0.9	1.2	1.7	1.9
対北東アジアシェア(%)	7.7	9.8	13.9	15.6

(出典：同左より作成 注) 2016年は暫定値)

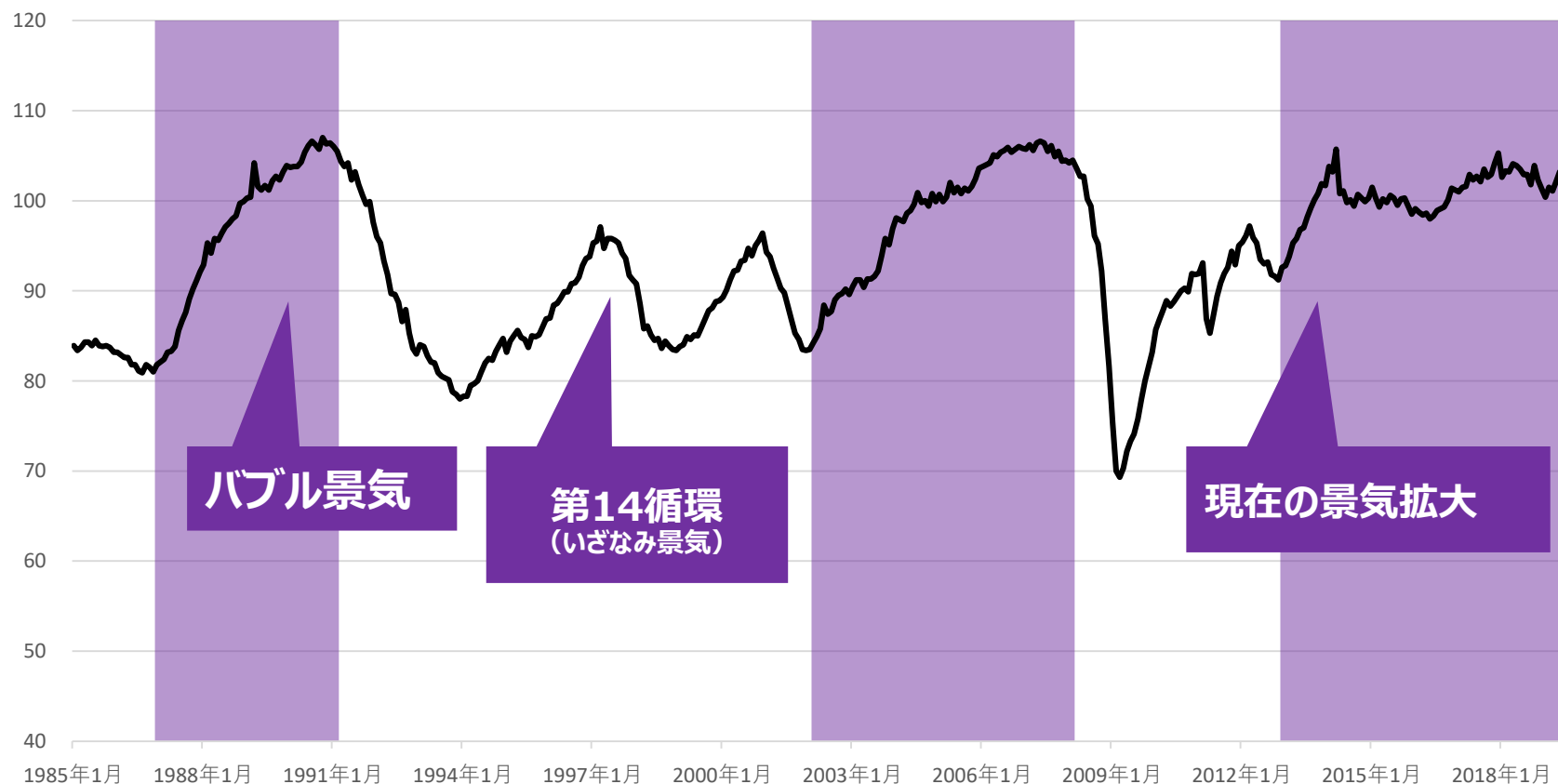
④ 低経済成長と厳しい京都市財政

＜国の経済と財政＞

◆我が国の経済は**緩やかな回復基調**が継続。

ただし、米中間の通商問題等の海外経済に関する不確実性が高まっており、**先行きは不透明**。

景気動向指数（CI一致指数）

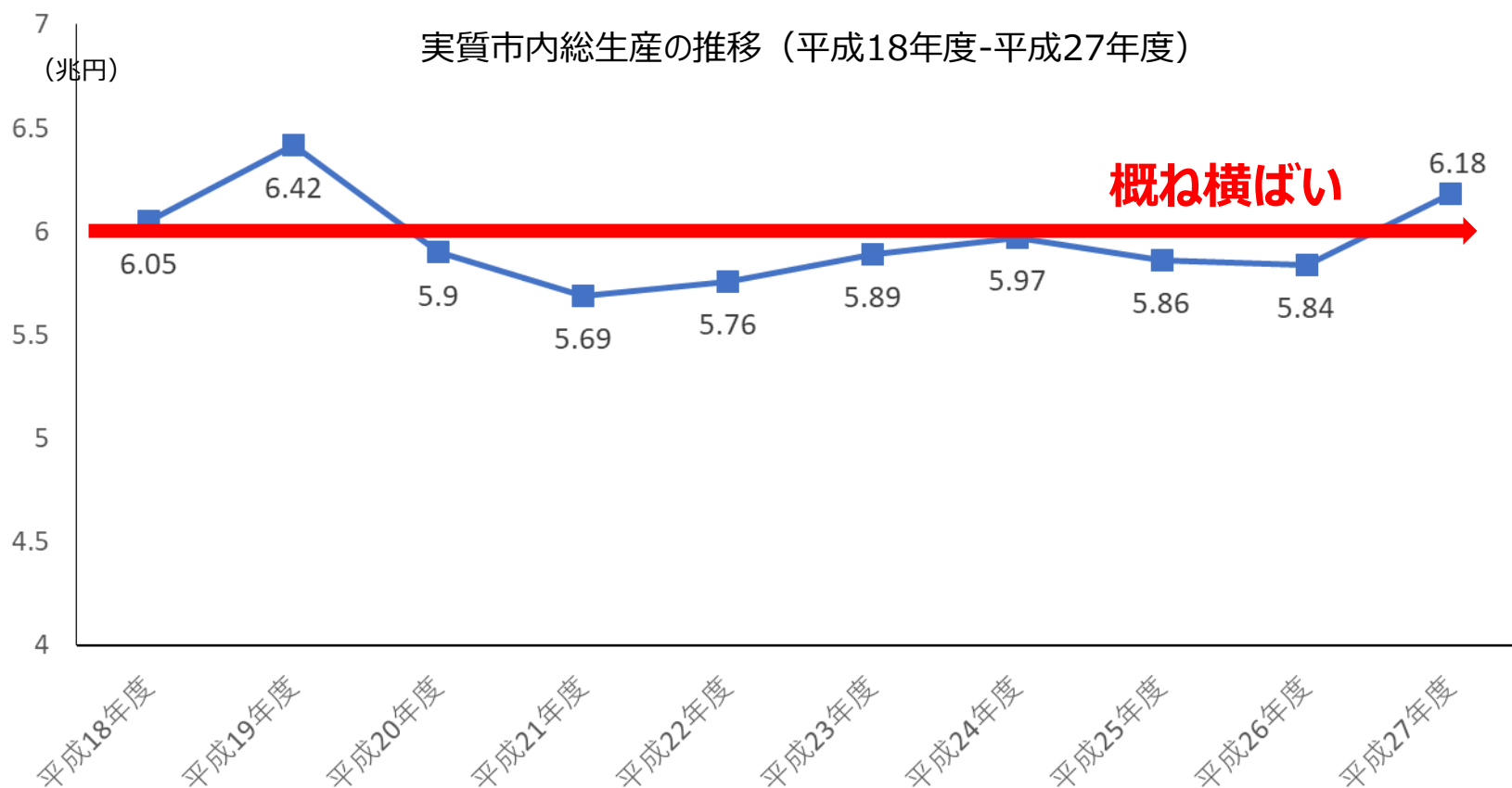


（出典：内閣府「景気動向指数の結果」）

④ 低経済成長と厳しい京都市財政

＜京都市の経済＞

◆京都市の**実質市内総生産**は**概ね横ばい**（6兆円前後）で推移



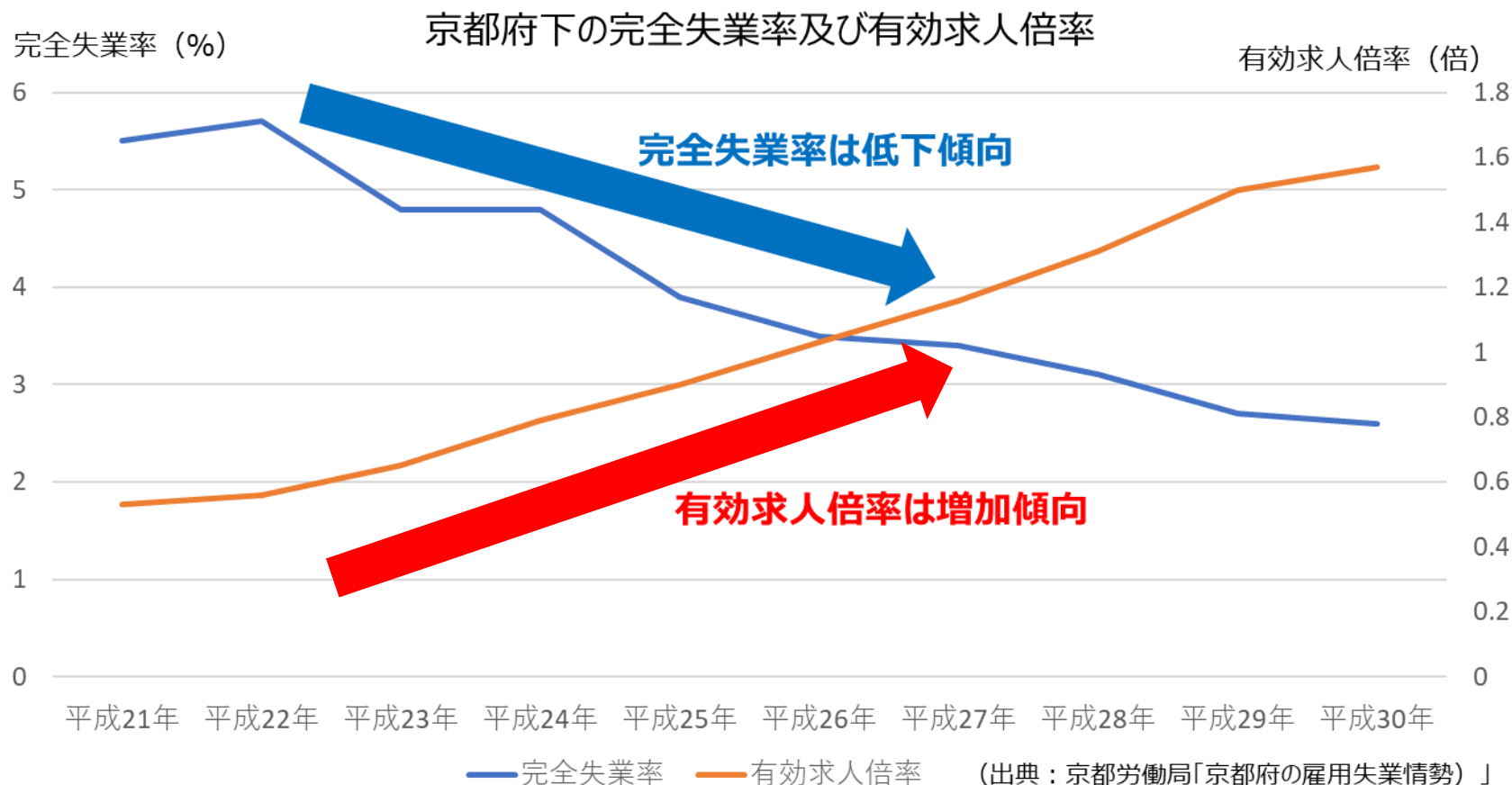
（出典：京都市※小数点第2位以下は四捨五入）

④ 低経済成長と厳しい京都市財政

<京都府の雇用情勢>

◆企業の成長と労働力人口の減少の影響で、

有効求人倍率，完全失業率ともに，改善傾向にある。

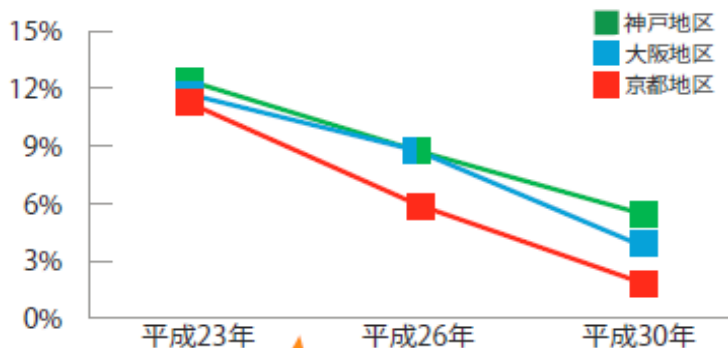


④ 低経済成長と厳しい京都市財政

<産業，働く場の推移>

◆オフィスが**不足**。市内で働く市民が**減少**。

オフィスの空室率の推移

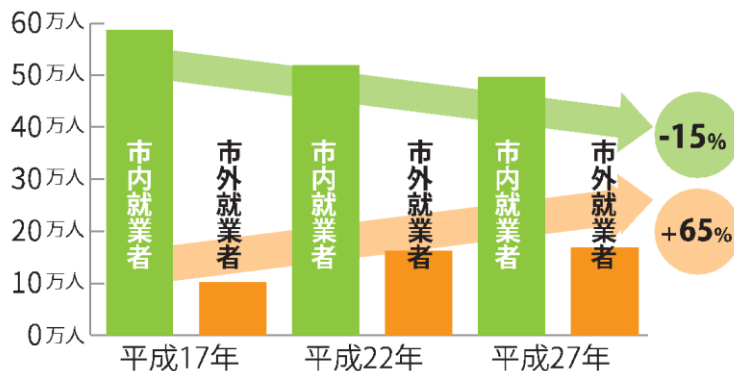


H23以降、延床面積1千坪以上のテナントビル新規供給なし

(出典：京都市)

市内での産業活動，働く場の確保に影響

就業者数の推移



(出典：京都市)

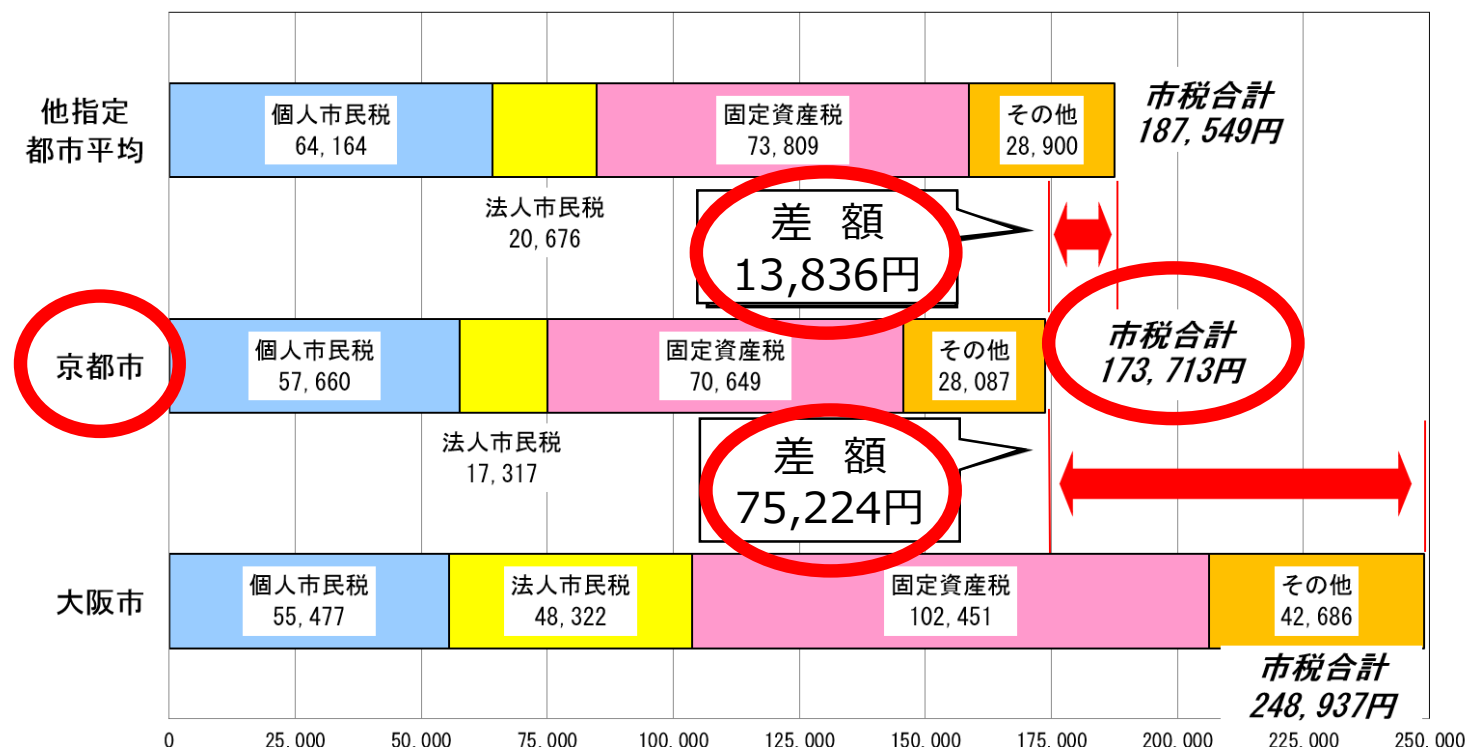
市民の働く場が市内から市外へシフト

④ 低経済成長と厳しい京都市財政

＜ぜい弱な京都市の財政基盤＞

◆京都市における市民一人当たり市税収入は、近年増加傾向にあるものの、**他の指定都市と比較すると、低い水準**にある。

市民一人当たり市税収入 【29年度実績】



- 京都市の市民一人当たり市税収入は、**他の指定都市の平均よりも約14,000円少なく**、京都市の人口は約147万人なので、**市税収入総額は204億円も少ない**こととなります。
- **大阪市と比較すると**、本市の面積は約4倍で、市域の面積に応じて消防・防火等をはじめとした市で行うサービスの量が多い一方で、**市民一人当たりの市税収入は約75,000円下回っており、大阪市より約3割も少ない**こととなります（人口147万人で換算すると△1,107億円）。

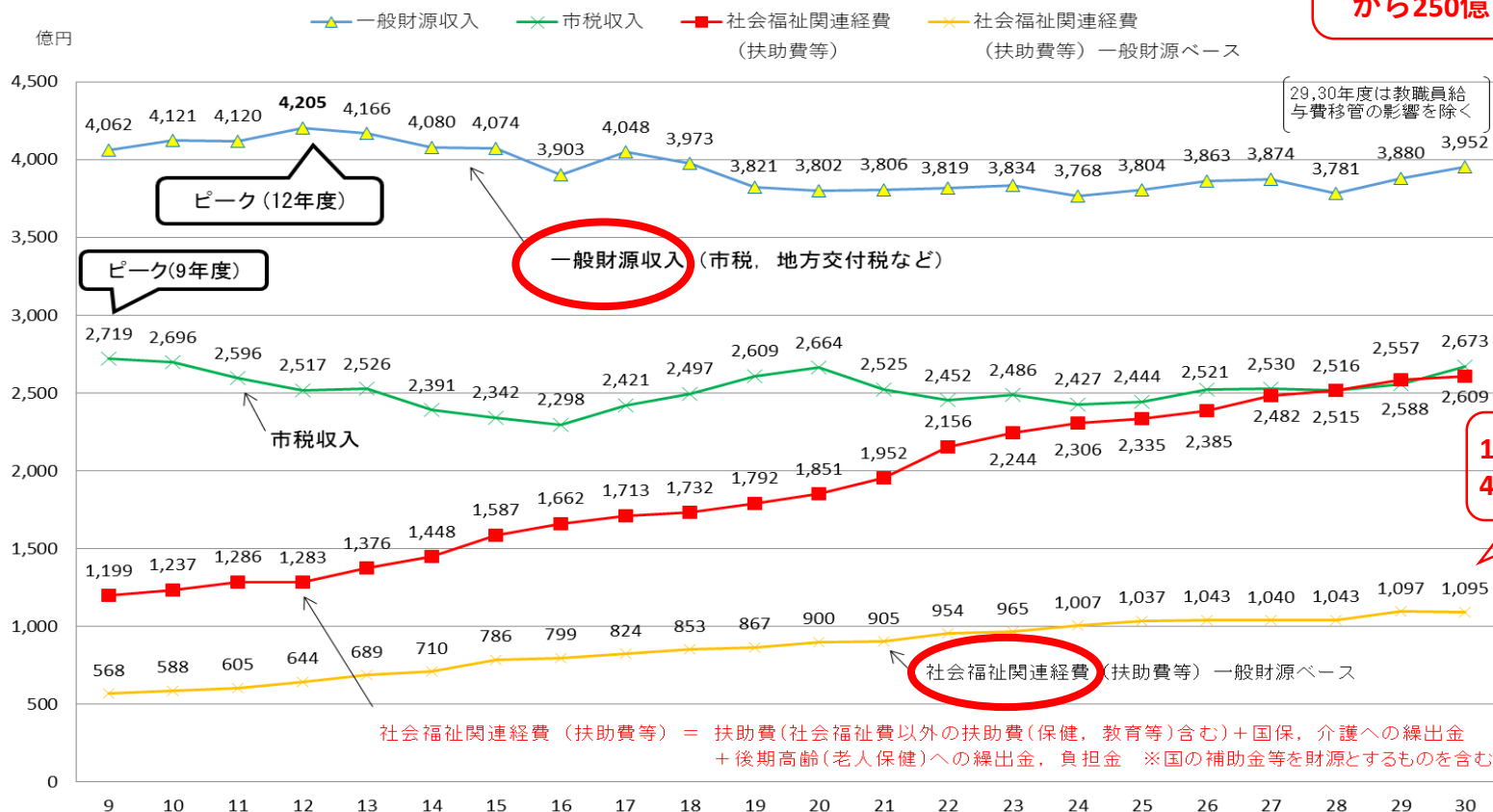
（出典：京都市）

④ 低経済成長と厳しい京都市財政

＜京都市の一般財源収入，社会福祉関連経費の推移＞

- ◆一般財源収入は，国の地方交付税等の削減により，ピーク時から**250億円以上減少した**状態が継続
- ◆この間，社会福祉関連経費に要する財源は**450億円以上増加**しており，財源不足を補うため，**将来の借金返済に充てるべき公債償還基金の取崩し**等へ依存

17 一般財源収入，市税収入，社会福祉関連経費の決算額推移(億円)



地方交付税等の削減により，ピーク(12年度)から**250億円以上減少**

12年度から450億円以上増加

(出典：京都市)

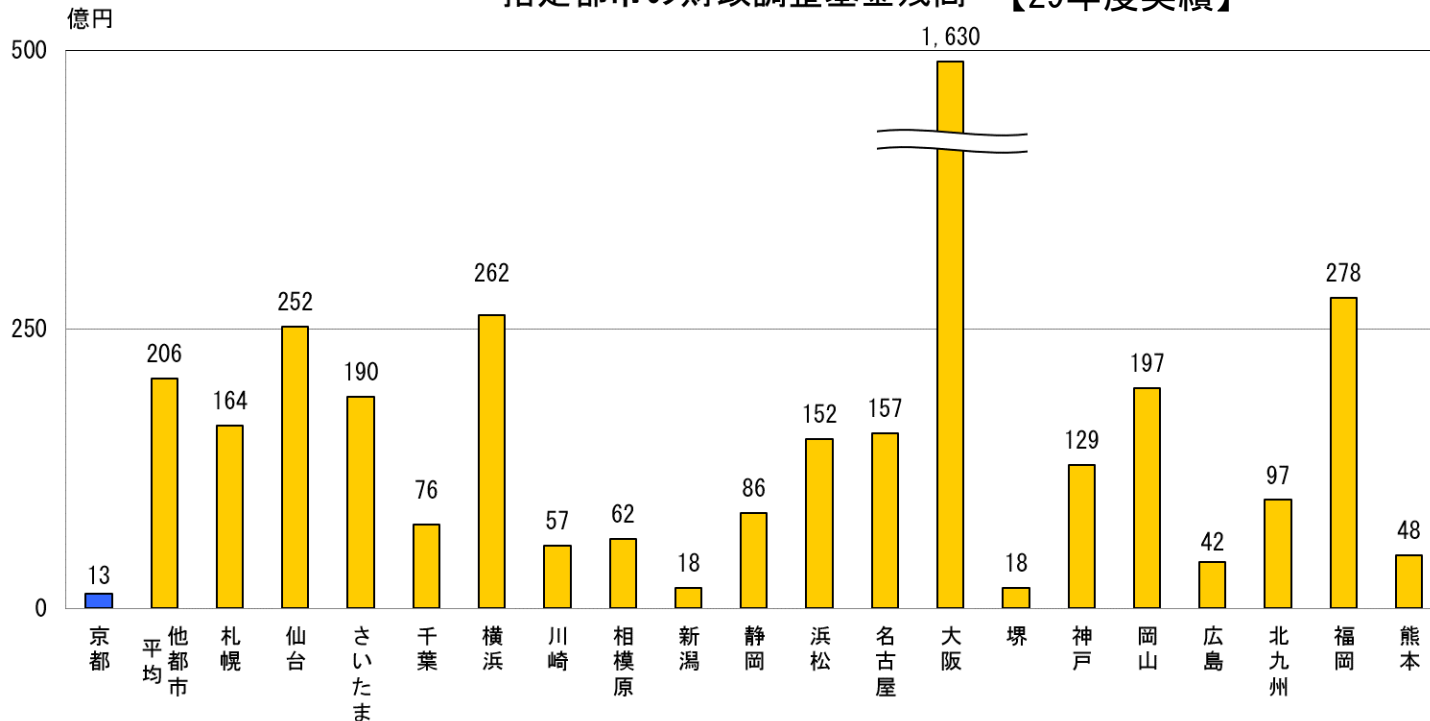
④ 低経済成長と厳しい京都市財政

＜極端に少ない財政調整基金＞

- ◆ 財政調整基金の残高は、他の指定都市と比較して**極端に少なく**、硬直的な財政運営を余儀なくされている

※ 経済情勢の変動による財源不足や災害発生など緊急の支出が必要な場合などに備えて積み立てている基金

指定都市の財政調整基金残高 【29年度実績】



京都市の財政調整基金残高は13億円となっており、指定都市で最も少ない状況となっています。

(出典：京都市)

第1部

- 1 京プランの総括
- 2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

- 3 審議の進め方
- 4 時代の潮流

(1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化

(2)市政に特に関わりの深い変化

(3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

①

令和3年度中に、機能強化された文化庁が京都へ全面的に移転予定



② 持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献

誰ひとり 取り残さない

#KYOTOSDGs

世界を変えるための17の目標



国連の「17の持続可能な開発目標」

持続可能で、格差のない、経済・社会・環境の調和のとれた発展に向けて、国際社会全体が2030年までに達成を目指す共通目標

③ 東日本大震災を契機としたレジリエンスの重要性の高まり

レジリエンスとは…様々な危機（ショック、ストレス）からの「回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）」を意味するとともに、ダメージを受けても粘り強くしななって元に戻りながら、以前よりもより良く立ち直る状態を表現する言葉

突発的なショック
(自然災害, テロ, サイバー攻撃等)



慢性的なストレス
(人口減少, 地球温暖化等)



④ 文化力・SDGs・レジリエンスと京都の6つの未来像との整合性

	文化力	SDGs	レジリエンス
環境共生と 低炭素のまち	京都人の価値観 環境共生		低炭素のまちづくり とくらの調和
日本の心が 感じられる国際都市	有形無形の京都の 特性を創造的に活用		平和とともに世界に 文化を発信・交流
環境と社会に貢献する 産業を育てるまち	京都の価値観・ 知恵を生かした産業 育成		豊かな生活・社会 を支える経済基盤 の確立
学びのまち	生涯を通じた多様な 学びの機会の創出		未来を担う若者を みんなで育て合う
支え合い 自治が息づくまち	人のつながりの豊かさ		自助・公助と京都 が誇る共助の力を 高める
真のワーク・ライフ・ バランスが実現するまち	文化的に学び憩う 時と空間の確保		いきいきと働き、家 庭・地域で心豊か に生活する。 55

第1部

- 1 京プランの総括
- 2 次期基本計画策定に当たっての考え方

第2部

- 3 審議の進め方
- 4 時代の潮流

(1)京プランに掲げる4つの背景に関する変化

(2)市政に特に関わりの深い変化

(3)今後を考えるキーワード

～世界を視野に，軸足を京都に～

文化の多様な価値創出

・文化を基軸とした取組

文化芸術基本法の施行，文化庁の全面的移転，
有形無形の京都文化遺産の継承，保存と活用の好循環の創出，
平和・共生社会の実現，経済の活性化，
文化によるイノベーション創出，食文化・生活文化の継承，
担い手の育成と創造環境の整備，国内外の文化交流の促進

・新景観政策のさらなる進化

京都の景観の守るべき骨格の堅持・充実，
規制法を含む創造法への景観政策の進化，豊かな自然景観の保全，
京町家等の都市景観の保全，地域特性を踏まえたきめ細かな対応



脱炭素・循環型社会の構築と生物多様性の保全

・ 温室効果ガス実質ゼロに向けた社会の実現

パリ協定, 1.5℃を目指す京都アピール,
省エネ・再生可能エネルギー拡大,
社会課題を解決するイノベーション創出
気候変動による自然災害の続発

・ ごみを出さない循環型社会の構築

ごみが出ない生産体制・ライフスタイル・
地域社会の構築,
プラスチックごみ対策 (G20大阪ブルー・
オーシャン・ビジョンの具体化),
さらなるごみ対策

・ 生物多様性の保全

京都の文化を支える自然環境の保全,
人と自然との関係の再構築,
森林の再生, 在来種の絶滅危機対策

地球の気温上昇を
1.5℃以下に
抑えるため

2050年
CO₂排出量正味



2020年に本格始動する
「パリ協定」の着実な進展に
重要な意味を持つ
2つの大きな成果が
日本・京都で誕生!

2030
SDGsの達成

2019 パリ協定を支える
IPCC京都ガイドライン
1.5℃を目指す京都アピール



子育て・教育環境日本一

- ・ **子どもを楽しく生み育てられる環境づくり**

少子化対策，共働きの増加，女性の活躍，貧困対策，
保育の担い手確保，地域ぐるみの子育て支援

- ・ **学び合い・育ち合う環境づくり**

社会との関わりを意識した教育，様々な挑戦を可能とする社会構築，
大学・学生の国際化，留学生への京都文化の浸透，
リカレント教育，いつでも学び直せる環境づくり

- ・ **困難を有する子ども・若者への支援**

医療的ケア児・障害児への対応，
児童虐待・いじめ・不登校対策，
長期化・高齢化するひきこもりへの対応，
切れ目ない支援，参加しやすい地域づくり



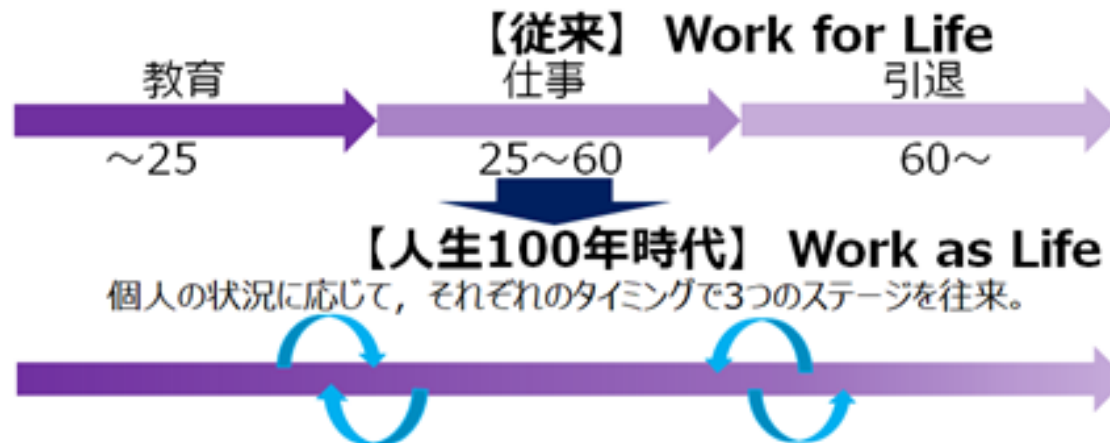
福祉・地域力の向上

・ 誰一人取り残さない地域社会づくり

単身化等による地域社会の変容，人生100年時代の到来，
コミュニティの多様化（SNS，子ども食堂等），
地域共生・社会的包摂，複雑化する地域課題への対応，
多文化共生，ダイバーシティ，町内会・自治会の活性化，
社会的孤立・8050問題への対応

・ 健康で安心安全な暮らし

犯罪・再犯防止，世界一安心安全なまちづくり，健康長寿・高齢者の活躍，
フレイル対策，ゴールドenspóーツイヤーズを契機としたスポーツ振興



公共交通を基軸とした持続可能な都市構築

・住む場所・働く場所の確保

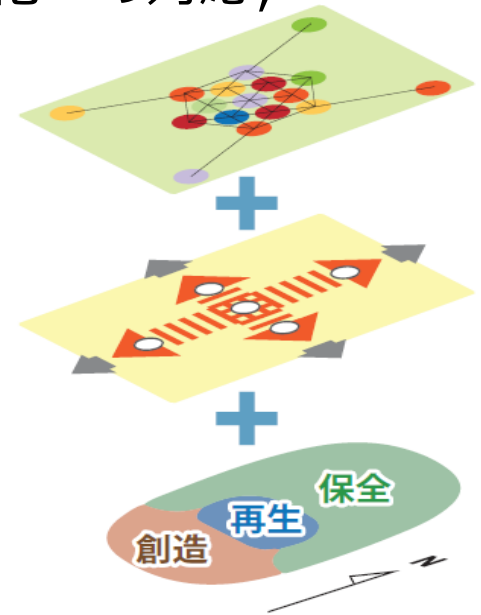
保全・再生・創造のまちづくり，都市のスポンジ化への対応，コンパクト+ネットワーク，若年層の定着，職住・育住近接

・歩いて楽しいまちづくり

公共交通利用割合のさらなる向上，公共交通の利便性向上・担い手確保，ライドシェア，新技術・新概念（MaaS）の活用，歩いて楽しい空間づくり

・地域の個性を生かした景観づくり・まちづくり

地域力のさらなる向上，まちづくりの担い手創出，エリアマネジメント，京都市立芸術大学の移転



都市インフラの強靱化・質の向上

・危機管理・防災・減災

南海トラフ地震への備え，災害の激甚化・スーパー台風への対応，
リダンダンシーの確保，都市基盤の長寿命化・機能向上

・社会活動を支える基盤整備

都市基盤の戦略的マネジメント，投資を誘発する都市づくり，
広域ネットワークの形成，ユニバーサルデザイン，空き家の有効活用



社会・経済価値の創造

・知恵の承継・担い手確保

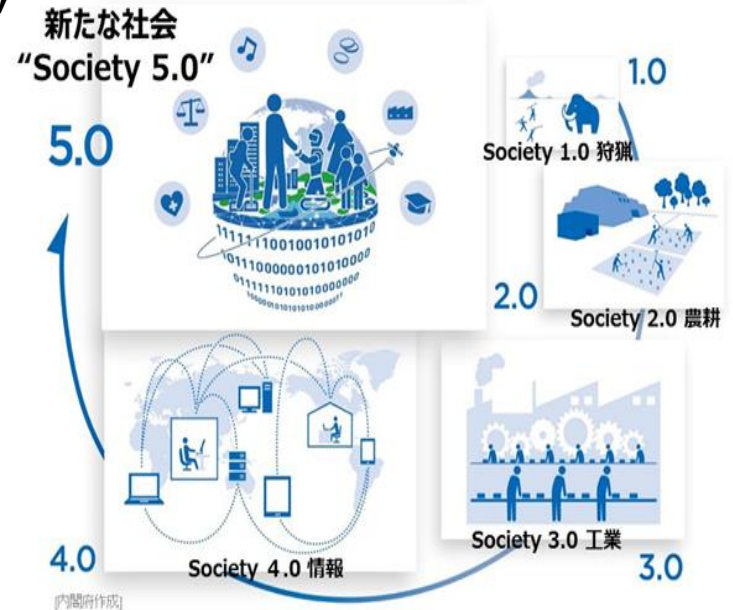
雇用・産業用地の創出，企業誘致，南部地域の創造，
地域企業の活性化，事業承継，学生に選ばれるまちづくり，
入管法改正・外国人労働者，伝統産業・技術・工程の継承，
働き方改革，生産性の向上，ディーセントワーク

・付加価値の高い新産業創出

地域特性や企業独自の強みを生かした知恵の活用，
グローバル視点・ローカル視点，デザイン思考，
クリエイティブ産業のクラスター化，
スタートアップ支援，E S G投資の呼込，
グローバル新市場の開拓・創造，
オープンイノベーション・交流

・Society5.0を見据えた取組

IoTによる新たな価値，
イノベーションによる様々なニーズへの対応，
AIによる情報の提供，
ロボットや自動走行等の技術による人の可能性の広がり



市民生活と観光の調和

・市民生活との調和

観光客の分散化，観光マナー向上，
観光効果の市域全体への還元，市民・観光客の安心安全，
質のさらなる向上，民泊（違法対策→向上），

・世界との交流

世界的な観光客の増加，観光立国，多文化共生，文化の相互理解の促進，
大阪・関西万博・MICE

・観光産業の高付加価値化

観光事業者の正規雇用，観光産業の生産性向上，
多言語対応，キャッシュレス化



御審議いただくに当たって

- ・ 100年先を見据えてこの5年で何をすべきか
- ・ 軸足を京都に置きつつ，世界を見据えて何をすべきか

これまでの延長線ではない

100年後も光り輝き続ける京都の礎づくりに向けて，
御審議をお願いいたします。

